

わたしたちの

道徳

小学校三・四年

学校名

三年

組

四年

組

名前

わたしたちの道徳

小学校三・四年

文部科学省

28

道徳

わたしたちの

小学校三・四年



わたしたちの
道徳



もくじ

この本の使い方	4
自分のことを書いてみよう	6

1 自分を高めて

(1)よく考えて節度ある生活を	10
読み物 少しでもいいなら	16
■自分を見つめ、自分を生かそう	20
(2)やろうと決めたことは最後まで	22
読み物 きつとできる	26
(3)正しいことは勇気をもって	30
読み物 よわむし太郎	34
(4)正直に明るい心で	38
読み物 六セント半のおつり	42
(5)自分の良い所をのばして	46
読み物 うれしく思えた日から	50

2 人と関わって

(1)だれに対しても真心をもって	56
(2)相手を思いやり親切に	62
読み物 心と心のあく手	66
(3)友達とたがいに理解し合って	70
読み物 同じ仲間だから	76
■ささえ合い 助け合い	80
(4)そんなけいと感謝の気持ちをもって	82

3 命を感じて

(1)命あるものを大切に	90
読み物 ヒキガエルとロバ	96
■たった一つの命 つながる命	100
(2)自然や動植物を大切に	102
(3)美しいものを感じて	108
読み物 富士と北斎	112

4 みんなと関わって

(1)社会のきまりを守って	118
読み物 雨のバス停留所で	124
■みんなが守らなくてはならない	128
きまりがある	130
(2)働くことの大切さを知って	130

(3)家族みんなで協力し合って	136
読み物 ブラッドレーのせい求書	142
■共に助け合って生きる	146
(4)協力し合って楽しい学校、学級を	148
読み物 みんな待っているよ	154
(5)きょう士を愛する心をもって	158
(6)伝とうと文化を大切に	164
コンピュータやけい帯電話などを	170
どのように使えばよいのでしょうか	170

周りの人たちと、	174
もっと仲良くするために	178
分けへだてをしない	184
わたしたちがつくる、	190
地球にやさしい生活	190
道徳の時間に学習したこと	190

この本の使い方

学校で

道徳の時間で
その他の授業で
休み時間や放課後に

家庭で

家の人といっしょに

地いきで

地いきの人といっしょに

読み物を読んで考えたり、
自分の考えを書きこんだり
しましょう。



友達と考えを
話し合いましょう。



家の人と話し合ったり、
書きこんだりして
みましょう。



地いきの人に
話を聞いて
みましょう。



いつでも、どこでも、何度でも、
開いてみよう「わたしたちの道徳」。
生きていく上で大切なことを考え、
自分の生き方に生かしていこう。

好きな遊び

好きなスポーツ

好きな食べ物

好きな歌

得意なこと

自分のことを

夢中になっ
ていること

好きな
本やお話

自分の
好きな所

目標に
したい人

しょう来の夢

好きな食べ物

好きな
スポーツ

好きな遊び

好きな歌

得意なこと

書いてみよう

夢中になっ
ていること

自分の
好きな所

好きな
本やお話

しょう来の夢

目標に
したい人

4
年

月
日

書いた日

3
年

月
日

書いた日

自分を高めて

- (1) よく考えて節度ある生活を
- (2) やろうと決めたことは最後まで
- (3) 正しいことは勇気をもって
- (4) 正直に明るい心で
- (5) 自分の良い所をのばして

(1) よく考えて節度ある生活を

節度ある生活をするために大切なこと

自分の健康

- ・朝ご飯をしっかり食べる。
- ・好ききらいなく食べる。

学習の進め方

- ・予習や復習をする。
- ・知りたいことを調べたり、本を読んだりする。

身の回りの整理整頓

- ・使ったものをかたづける。
- ・自分でそうじをする。

物やお金の使い方

- ・筆記用具を最後まで使う。
- ・むだづかいをしない。

みんなとの遊び

- ・体を動かして元気に遊ぶ。
- ・きまりを守って仲良く遊ぶ。

リズムのある生活

- ・早ね早起きをする。
- ・時間を決めて、勉強や遊びをする。

◆ 節度ある生活をするために大切なことを、他にも考えて話し合ってみましょう。

ことわざ

次のことわざにはどのような意味があるのかを調べてみましょう。

腹八分目に医者いらず



早起きは三文の徳



社会で活やくする人に学ぼう

社会で活やくしている人の中には、自分の力が十分に出せるように節度ある生活を心がけている人がたくさんいます。

プロ野球選手の話

プロ野球選手の話をおどろきました。試合が終わると、すぐにミットやスパイクの手入れをします。そして、その日うまくいかなかったことを、くり返し練習するようにしているのだそうです。



遊園地で働くお姉さんは、えがおがすてきで、とてもかがやいて見えました。お姉さんに話を聞くと、毎日、仕事に出るときには、必ず鏡を見て服そうを整え、あいさつの練習をしているそうです。また、お客さんが帰った後には、すみずみまできれいに遊園地のそのじをしているそうです。



遊園地で働いている人の話

バスの運転手さんの話

バスの運転手さんに、安全運転のひきつを聞いてみました。



運転手さんは、毎日しっかりとねむり、三度の食事をきちんととって、健康な体づくりを心がけているそうです。また、きそく正しい生活をするのは、決まった時ごくどおりにバスを運行することにも大いに役立っていると言っていました。

●身近な人に、節度ある生活の工夫を聞いてみましょう。

金色の魚

1

昔、まずしい漁師のおじいさんが漁をしていると、金色の魚がかかりました。魚はおじいさんに、好きなものをあげるからにがしてくださいとたのみました。おじいさんは、何もいらないと言ってにがしました。



2

家に帰っておばあさんに話すと、おばあさんは、おけがこわれているので、おけをもらうようにと言いました。おじいさんは、海にもどって、おけがほしいと金色の魚にたのみました。おじいさんが家に帰ると、おばあさんが新しいおけを持って立っていました。



3

次に、おばあさんは、新しい家がほしいと言いました。おじいさんは、海へ行って金色の魚にたのみました。おじいさんが帰ってみると、そまつな小屋が、新しいきれいな家に変わっていました。



4

その次に、おばあさんは、お金持ちになりたいと言いました。おじいさんは、海へ行って金色の魚にたのみました。おじいさんが帰ってみると、りっぱな家の入口に、きれいな服を着たおばあさんが立っていました。



5

今度は、おばあさんは女王様になりたいと言いました。おじいさんはよくばりすぎだと言いましたが、おばあさんは聞きません。おじいさんは、海へ行って金色の魚にたのみました。おじいさんが帰ってみると、りっぱなごてんで、おばあさんは女王様になっていました。



6

とうとう、おばあさんは、海の王様になりたいと言いました。おじいさんは、海へ行って、金色の魚をよんで、こまつたような顔をしてわけを話したのみました。金色の魚は、だまって海の底へかくれてしまいました。



7

おじいさんが、おばあさんのところへ帰ると、元のようなそまつな小屋の前で、おばあさんがぼんやりすわっていました。



●この話を読んで考えたことを、書いてみましょう。

◆金色の魚は、なぜだまって海の底へかくれてしまったのでしょうか。友達と話合ってみましょう。

少しだけなら

「ねえ、お母さん、パソコンを使ってもいいかな。学校の調べ物があるんだ。」

あつしたちは、総合的な学習の時間で、遠足のパンフレットづくりをしています。あつしは、中央公園のたん当になりました。

「だめよ。きちんと使わないと、大変なことになるんだから。お母さんは、今から買い物に行くから、帰ってきたらいっしょに見てあげるわ。」

「大じょうぶだよ、学校で習ったから。みんなも、家で使っているって言っていたよ。」

「本当に、大じょうぶなの。」

「ちゃんと約束を守るから。ぼくを信じて。ねっ。」

あつしは、パソコンを使うときは『時間を決める』、『あやしいサイトは見ない』、『名前や住所などは入力しない』とい



うことを、お母さんと約束しています。

「大じょうぶね。しっかり守るのよ。」

お母さんは、そう言うて買い物に出かけました。

(いつものように、タイマーをセットして……。)

あつしは、さっそく、パソコンに向かいました。

「中央公園」と入力すると、うまくサイトを見付けることができました。

(よし、これを印刷したら、できあがりだ。)

そのときです。画面の右はしに、気になるものを見付けました。

「なになに、ゲームソフトのわり引きけんがもらえるのか。でも、あやしいサイトは見ないって、お母さんと約束したからな……。でも、少しだけなら、大じょうぶだろう……。」

あつしは、おそろおそろ、クリックしてみました。

「あなたの名前と連らく先を入力してください。」



カチッ。タイマーの音を止めたあつしは、じっとパソコンの画面を見つめました。
(ふう……。)

大きいため息をついたあつしは、ゆっくりとゲームソフトのサイトをとじ、パソコンの電げんを切りました。そして、中央公園の印刷物を整理し始めました。

そこに、お母さんが買い物から帰ってきました。

「ただいま。あらっ、ちゃんと使えたのね。約束も守って、えらかったわね。」

「うん……。」

あつしは、下を向いて、ぽつりと答えました。

(ええっ。名前を入れないとだめなのか……。仕方ないな。)

あつしは、パソコンの電げんを切り、中央公園の印刷物を整理し始めました。

でも、あつしは、ゲームソフトのわり引きけんが気になって仕方ありません。

(少しだけなら、いいかな。それに、お母さんもまだ帰ってきていないし。)

あつしは、もう一度、パソコンの電げんを入れ、先ほどのサイトに進みました。

(名前と連らく先か……。少しだけなら、大じょうぶだろう。きっと、みんなもしているよ。)

どきどきしながら、名前を入れ始めたときです。

ピピッ、ピピッ、ピピッ。

タイマーの音が、部屋の中にひびきわたりました。あつしは、はっとしてキーボードから手をはなしました。



自分を見つめ、自分を生かそう

わたしの前に続く一本の道。
その道は
まっすぐな道。曲がりくねった道。
下り坂がある。上り坂もある。
でこぼこな道。細い道。
そして、広い道。

どこまでも、
どこまでも続いている。
この道は
新しいことに出会える道。
そして、これからの
すてきな自分と出会う道。

(2) やろうと決めたことは最後まで

「今よりも、よくなりたい」という心を大切にしよう

「すごいな、かっこいいなあ。」

「できなくて、くやしいな。」

「がんばってみようかな。」

このように思うのは、あなたに

「今よりも、よくなりたい」

という心があるからです。

その心を大切にして、

自分のがんばる力をのばしてみましよう。

もっと、勉強をがんばりたい。



もっと、家族の役に立ちたい。



もっと、運動をがんばりたい。



もっと、上手になりたい。



目標に向かってがんばり続けるひけつ

がんばればできそうなことから
目標を立てていく

がんばる時こくを決める

目標を書いて見える所にはる

好きではないことも
少しずつやってみる

人に目標を話してはげましてもらう

- 目標をやりとげられるひけつを取材してみましよう。
- 方法
- ① 有名な人やスポーツ選手などの本を読む。
 - ② 家族や先生、友達に聞いてみる。

やろうと決めたことは最後まで

人物のコラム

夢は見るものではなく、かなえるもの

澤 穂希

なでしこジャパンの選手たちは、サッカーとなれば必死に努力し続けています。こけても、血が出ていても、ボールを追うこと、ゴールをうばうこと、ゴールを守ること……そこに集中することにみんな必死でした。そんなわたしたちのすがたはかっこ悪いものだったでしょうか。きっとそうではなかったと思います。だからポイントは、「一生けん命やること」なんです。もしそれを「はずかしい」と思うならば、その理由はたった一つです。それは、『「一生けん命」を中途半端にやっている」から。だからかっこ悪いし、はずかしいんです。「一生けん命」が



んばること、わたしはかなりかっこいいと思います。そして、もしその思いがほんもので、向かっているものも正しい道だと思えたときは、今度はそれをとことん楽しんでください。

わたしは、そうやってこれまでに積み重ねてきました。そしてこれから積み重ねていくと思います。

次の「夢をかなえる」ために。

やっぱり、夢は見るより、かなえた方が断然楽しいと思います。

澤 穂希
(一九七八～)
元サッカー選手



目標をもってチャレンジしてみよう

● 目標や目標を立てた理由、目標に向かってがんばっているときの気持ちを書きましよう。

一言がんばり日記			目標を立てた理由	目標
月 日	月 日	月 日		
月 日	月 日	月 日		
月 日	月 日	月 日		

三年

四年



「行ってきます。」

小学生の尚子^{なおこ}は、お父さんとお兄ちゃん^{にい}の三人で、元気よくジョギングに出かける。見送^{みおく}ってくれるお母さん^{かあ}にえがおで手をふって走り出した。

しばらくすると、道の向こう^{むこう}の方から、泣き声^{なみ}が聞こえてくる。尚子だ。お父さんとお兄ちゃんは、小さな尚子がおくれても全く^{まった}気にせず、どんどん先^まに行ってしまうので、尚子は、くやしがつて、泣きながら追いかける。そんなに泣くなら、いっしょに走らなければいいのだが、次^{つぎ}はまた、うれしそうに走りに出かけるのである。この小さな女の子が、しょう来、オリンピックに出場することになると、だれが思っただろう。

尚子は、高校生になると、いろいろな大会の長きよりの代表選手^{だいいひょうせんしゅ}に選ばれた。しかし、出場してみると四十七人中、四十五位^いだったり、予選落ち^{よせんおち}だったり、尚子より速い^{はや}選手はたくさんいた。

大学生になって陸上競技^{りくじょうきぎ}長きよりのテレビ中けいを見ていても、画面^{がめん}にうつる人たちはみんな、びっくりするくらい速かった。尚子は、ため息^{いき}をつきながら、ごろんとねころんだ。
(自分はどんな選手になりたいんだろう。何を目標^{もくひょう}にして走っているんだろう……。)と、毎日考えていた。

尚子が毎日練習^{れんしゅう}で走る道には、出会いがいっぱいだ。

「こんにちは、つぼみが開いた^{ひら}ね。きれいだよ。」

尚子は道ばたの草花に立ち止まって話しかけ、ほほえむ。

そしてまた走り出す尚子にふく風は、「春から夏になるよ」と季節^{きせつ}のうつり変わり^かを伝えてくれる。土^{つち}のにおい、日差し^{ひざし}の色。尚子は、いつの間にか自分が風になったように走りぬける。

(小さなころから、そう、くやしくて泣きながら走っていたあのころから、ずっとそうだ。わたしは、走ることが好きで好きでたまらなかったんだ……。)

ある日、走りながら気が付いた。

(人と戦^{たたか}うんじゃない、自分の記録^{きろく}と戦うんだ。)



二〇〇〇年、シドニーオリンピック。世界の有名選手とのマラソンレース。レースの後半は、尚子とルーマニアのシモン選手の二人の金メダル争いとなっていた。

そんな中でも、尚子はシドニーの風を感じ、走ることを楽しんでいた。沿道でお父さんのすがたを見付けた尚子は、かけていたサングラスをお父さんに向かって投げた。それと同時に、シモン選手をぐんぐん引きはなすラストスパートをかけたのである。

大かん声の中、尚子は優勝のゴールテープを切った。

こうして世界中の人の感動とともに、日本人女性として初のマラソン金メダリスト「高橋尚子」がたん生したのである。



分へのちよう戦が続いた。つらいときは自分を上げまし、できたときは自分にはく手を送った。

(がんばれば、きっとできる。)

こうして尚子は、自分の記録をのばしていった。

その後、尚子は、強いマラソン選手を育てることとで有名な小出かんとくのもとでさらに練習を続

それからというもの、毎日、がんばれば手がとどく小さな目標を立ててそれを達成していくことにした。

長い階段を一気にかけ上がろうとすれば、途中でばてる。時間がかかっても、一だんずつしっかり登っていけば、上まで登り切れる。

尚子は、そういう気持ちで練習した。大学の門は、夜八時にしまる。七時まで走って、その後、部屋に入って筋力をつけるトレーニングを毎日行った。いつも一人で、八時ぎりぎりまで練習していたら「ハチコさん」とよばれるようになってしまった。昨日の自分の新記録を、今日、自分でやぶるという、自

(3) 正しいことは勇気をもって

勇気を出せるわたしになろう

勇気を出して正しいはんだんをしたときの
自信とほこり。

正しいことを行えないときの後ろめたさや
後かい。

「みんなもやるから……。」

と、あなたのはんだんをにぶらせてもよいの
でしょうか。

成長とともに、はんだんできることもふえ
てきました。

何が正しいことなのか、自分の行動にどう
表すのかを考え、選ぶのはあなた自身です。

勇気について考えてみましょう。



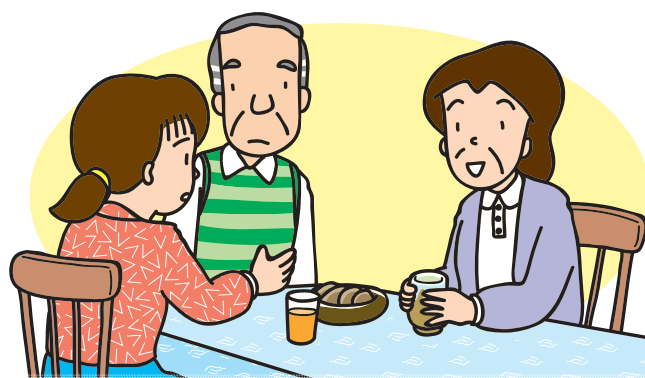
なぜ、勇気を出せないのだろう

正しいと分かっているても、なかなか実行できない。
正しいと思ったことがなぜできないのでしょうか。

- 「こんなことを言うと、みんなはどう思うか。」
と気になるから。
- 反対すると、仲間外れにされそうで心配だから。
- いけないと分かっているても、楽しくてやめられな
いから。
- 自分が言っても、みんなが聞いてくれないと思う
から。
- 言い出すきっかけが見付からないから。

どうすればよいかははんだんにまよっ
たり、どう行動すればよいかなやんだ
りしたら、一人で考えこまず、周りの
人に相談する
ことも大切で
す。

いろいろな
人から意見を
聞いて、正し
いと思うこと
を勇気をもっ
て実行してい
きましょう。



◆ この他にも勇気が出せないわけがありますか。考えてみましょう。

勇気をもって行動しよう

◆ 勇気のある行動とは、どのような行動でしょうか。次の行動について考えてみましょう。

- まよったけれど、電車の中でお年よりに席をゆずった。
- いじめている人に、やめるように注意した。
- あぶないことなのに、弱虫と言われたくなくてやった。
- 学校の帰りにより道しようとさそわれたけれど、ことわった。



あなたの勇気をさがしてみよう

よいか悪いか、正しいかまちがっているかをはんだんし、勇気をもって行動できていますか。

義を見てせざるは勇なきなり

*人として行うことが正しいと知りながらしないことは、勇気がないのと同じことである。

● 勇気をもって行動できたときのことと、そのときの気持ちを書きましょう。

4年	3年

勇気をもって行動できたときの気持ちだが、さらにこれからの勇気ある行動につながっていきます。

よわむし太郎

昔、ある村によわむし太郎とよばれる男がおりました。

せはとても高く、力も人一倍あるのに、子どもたちからどんなにばかにされても、ひどいいたずらをされても、にこにこ笑っていました。

子どもたちは、それをよいことに、

「よわむし太郎。こっちへ来い。よわむし太郎。」

と、いたずらをするのでした。

ある子どもは、太郎が気付かぬうちに、馬のわらじを太郎のこしにしばり付けて、はやし立てました。

また、列の子どもは、木の上から、下を通る太郎目がけて真っ赤にじゅくしたかきの実をぶつけ、顔や着物をどろどろによごしてしまいました。

それでも太郎は、

「子どものことだもの、仕方ねえさ。」

と言って、にこにこ笑っていました。



太郎は、森の小屋に一人で住んでいました。

その森には、大きな池があって、そこに毎年、白い大きな鳥が飛んできていました。村の子どもたちは、その白い大きな鳥には決して悪さをしませんでした。

そればかりか、その白い大きな鳥を大切にしていました。

「今日は、十二羽もいるぞ。」

「おれのやったえさを食べたぞ。」

子どもたちにとって、この白い大きな鳥は仲の良い友達でありました。

子ども好きの太郎は、もちろんこの池に来ては、せっせとえさをやって世話をしておりました。

この国のこの様は、たいそう強く、その上、かりが大好きでありました。いつもこの様は、家来を連れて野原や山をかけ回り、しかやうさぎ、いのししなどを仕とめておりました。

あるときこの様は、太郎のいる村の近くでかりをしました。

山の中を一日中走り回りましたが、この日にかぎって一ぴきのえものもつかまりませんでした。

「ええい。何でもよい。何かつかまえないかっ。」

この様はたいそうはらを立てて、大声でどなり始めました。



でも、うさぎ一ぴきあらわれませんでした。
すっかりおこったこの様は、子どもたちの遊んでいる森の中の池の方
まで進んでいきました。

「おお。あそこに白い大きな鳥がいるぞ。これはよい、あれを今日のみ
やげにしよう。」

この様は、弓をかまえるとねらいを定めました。
その時、

「だめだ。だめだ。あの鳥をうってはだめだ。」

大きな手をいっぱいに広げて、この様の前に立ちはだかった者がおり
ました。太郎です。

「こらっ、だれだっ。わしのじゃまをするやつは。」

おどろいた家来たちが太郎をどけようとしたが、反対に太郎にやられてしまいました。

「どけっ。じゃまをする、おまえも鳥といっしょに仕とめてしまおうぞ。」

この様は大声を出しましたが、太郎は動きませんでした。

「だめでございます。あの鳥は、この辺りの子どもたちが、毎日えさをやって世話をしているので
ございます。子どもたちが悲しみます。どうか、助けてやってください。」

太郎は両手を広げたまま、目から大きなみだをこぼして、この様にたのみました。

じっと太郎をにらんでいたこの様は、しばらくすると、ゆっくり
と弓を下に向けました。

「おまえが子どもたちを思う気持ちと、その勇気にめんじて、この
鳥をとらないことにしよう。」

この様は、馬にまたがると、しろに向かって帰っていきました。
どうなることかと心配していた子どもたちは、わっと、太郎の周
りに走りよりました。

池にいるあの白い大きな鳥だけは、何事もなかったように、ゆう
ゆうと泳いでいました。

それから後は、「よわむし太郎」という名前は、この村から消え
てしまいました。



ボール^な投げを^なして、
まどガラスを^なわってしまった。

正直に 言えない心

しかられるのがいやだから、
知らなかったことにして、
だまっていよう。

正直に言おう とする心

自分が失敗してしまったこと
だから、本当のことを
きちんと言おう。

どうしよう



●こちらが勝つと、どのような気持ちでしょう。

●こちらが勝つと、どのような気持ちでしょう。

「心のつな引き」で自分と向き合おう

(4) 正直に明るい心で

自分に正直になれば心はとても軽くなる

すなおな心

「正しいことをしたい」という心を大切に
して自分の心に真^まっすぐに向^むき合^あうと、気
持^もちがすっきりとして、心が軽くなりませ
んか。

すなおになれない心

「自分に都合^{つごう}が悪い^{わる}から」「失敗^{しっぱい}をみとめ
たくないから」「本当のことを言うのがこ
わいから」といって、すなおになれなかつ
たり、ごまかしたりすると、心が暗^{くら}くなり
ませんか。



自分の中の正直な心を見つめよう

よく使う言葉から考えてみよう

自分の中にある正直な心を
引き出していく言葉

「ごめんね。」
「ありがとう。」
「それは、わたしです。」
「それはだめだよ。」
「よかったね。」

自分はどちらの言葉を
よく使っているだろう。

●自分の心に正直に行動できてうれしく
感じたことはありませんか。そのときの
気持ちを取り返してみましよう。

自分の中にある正直な心を
おおいかくしていく言葉

(知っていても)「知らないよ。」
(見ていても)「見ていないよ。」
(思わなくても)「そう思うよ。」
(していても)「わたしだけじゃないよ。」
(関係があるのに)「わたしには関係ないよ。」



正直な心をもった人をさがそう

お話で

●教科書や図書室の本などの中から、
正直だと思った人をさがしてみま
しょう。
その人のどのような所が正直だと
思ったのかも書きましよう。

生活の 中で

●日々の生活の中で、この人の行動
は正直だなど思ったことはありませんか。
その行動を見て、どのようなこと
を考えましたか。

正直な人

どのような所

正直な行動

その行動を見て考えたこと

正直な人

どのような所

正直な行動

その行動を見て考えたこと

風のふく、寒い日でした。

「おい、エイブ。今夜は早く食事をしてねようじゃないか。」

主人のオフエツトさんが、言いました。

「そうですね。今日のかん定をすませてから、食事にしますよ。」

エイブは、そのお店のわかい番頭さんです。紙切れにいったい字を書いて、売上金を調べています。

もう、とつくに日がくれました。夜になると、川に囲まれた町は、すっかりさびしくなります。町といっても、家がたった十五けん、百人くらいしか住んでいないのです。

今から約二百年前、アメリカのミシシッピ川の周りに散らばっているいなか町は、たいてい、そんなものだったのです。

オフエツトさんの店は、さとう、塩、かま、くわ、ぼうし、くつ、服など、何でも売っていました。近くの農家の人たちが、ここへ来て、必要な物を買っていきます。

(変だなあ、かん定が合わないぞ。六セント半もあまってしまふ。)

エイブは、首をかしげました。それから、おでこをたたいて、

「あ、そうだ。おつりをまちがえた。」

と、つぶやきました。

昼間、布地をたくさん買っていった女性のお客があります。その人

にあげたおつりが、少なすぎたのです。

今まで、気が付かないでいました。

「大事なお客様だ。今日のうちに、返してこよう。オフエツトさん、ちょっと

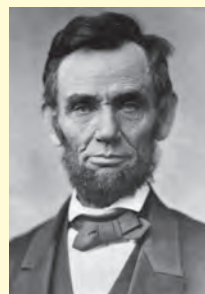
そこまで行ってきます。」

エイブはそう言って、オーバーを引っかけました。

六セント半のおつりをポケットに入れ、外へ出ました。冷たい風が、ヒューヒュー、体にしみます。でも、長い足で、どんどん夜道を歩きました。

この辺の農家は、広いあれ地や森の中に、ぽつんぽつんと建っています。ちよつとそこまで——そう言いましたが、なかなか着きません。なぜなら、昼間の女性は、十キロもはなれた農家の人だったからです。着くまでに、たっぷり二時間かかりました。





エイブラハム・リンカーン
(一八〇九〜一八六五)
第十六代アメリカ合衆国大統領

アメリカ、ケンタッキー州で生まれたエイブラハム（エイブ）・リンカーン。まずしい生活にたえ、家族の死を乗り越えた少年は、第十六代アメリカ合衆国大統領になりました。



ラッシュモア山の
四人の大統領の像

右はしがリンカーン



リンカーン像と
リンカーン記念館

けれど、エイブは、にっこり笑って、「すみませんでした。この次は、気を付けますから、どうぞよろしく。」と言うと、夜ふけの道を、真っすぐ帰っていききました。



「こんばんは。ぼく、オフエット商店のエイブです。」
エイブは戸をたたきました。

「まあ、今ごろ、何のご用？」

女性が、不思議そうに出てきました。

「あのう、実は、お金をまちがえたんです。昼間、布地を買ってくださいましたね。あの時の、おつりですけど……。」

「じゃ、あといくら、差し上げればよろしいの？」

その女性は、てっきり、お金が足りないのだと思いました。

「いいえ、差し上げるおつりが、六セント半少なすぎたんです。ここに、持ってきました。」

エイブは、あわててポケットからお金を出しました。

「あれまあ、あなた、それだけのことで、こんな寒いばん、ここまで来てくださったのですか。町の人が、あなたのことを、正直エイブ」

だなんて言っていましたけど、本当にまあ。」
女性は、ひどくおどろいた様子で、何度も、エイブを見上げました。六セント半といったら、今の日本のお金に直して、六円ほどなのです。



整とんが苦手

気になる所はどこだろう



はつきりと言えない



わすれ物をする



元気にあいさつ

良い所はどこだろう



やさしくできる



えがおがいっぱい



仕事をがんばる

自分の良い所、気になる所はどこだろう

(5) 自分の良い所をのばして

気になる所

良い所

●自分の良い所、気になる所を見つけてみましょう。

伝記を読もう

伝記を読むと、いろいろな生き方にふれることができます。それぞれの人物がどのようなことになやんで、どのように自分をのばしていったのかを、本から学ぶことができます。

●伝記の人物の名前と学んだことを書きましょう。

人物

学んだこと

人物

学んだこと

人物

学んだこと

*伝記とは、人物の生き方やしたことをまとめた本。

人生の先ばいに学ぼう

自分は何かに才能があるのだと
いうことを信じましょう

マリー・キュリー
(科学者)



「だめな子」とか「悪い子」な
んて子どもは一人だっていない

手塚 治虫
(漫画家)



いろいろなことにちょう戦して
自分らしい表現方法を見付けて

俵 万智
(歌人)



ダイヤモンドは何回も何回も
きず付きみがかれて美しい
かがやきを放つんだよ

千住 真理子
(ヴァイオリニスト)



●人生の先ばいからのメッセージを読んで感じたことを書きましょう。

うれしく思えた日から

ふと思うことがあった。

ぼくは、勉強のときはまあふつう。せいかくは、自分でも悪くない方だと思う。でも、進んで何かをするのは、ちよつと苦手で、一応みんなといっしょに行動するけれど、中心になることはない。運動も、まあふつうと言いたいところだけど、鉄ぼうは、何度やってもさか上がりができなかった。みんなは、らくらくできるのに……。とび箱は、何とかとべる。でも、いつもおしりをこする。失敗するとますますきんちようして、次には、ゴツンと音がする。

(いい所なんて一つもない。)

そう思っていたのだけれど、ある日とつ然、ぼくがぼくであることをうれしく思える日がやってきた。それは、体育の時間のフットボール投げのときだった。ボールは三十メートルをこえていた。みんなは、

「うおーっ。」

と声を上げ、

「しょう君、すごいなあ。いいかたをしてるね。」

と言って、かたをたたいていっしょに喜んでくれた。

クラスメイトのけい君が、

「ぼくらの野球チームに入りなよ。」

とさそってくれた。二回目も三十メートルをらくらくこえた。

「あなたは、野球に向いているかもしれないね。」

と、たんにんの川村先生も言ってくれた。

これまで気付かなかったけれど、ぼくにもいい所があったんだ。

その日の夕飯のとき、

「ぼく、野球をやってみたいんだけど。」

と、ボール投げのことを話しながら、家族に相談してみた。お父さんもお母さんも、大賛成してくれた。

「あのチームの練習はともきびしいみたいよ。でも、がんばって。しょうのいい所を生かしていったら、イチロー選手みたいになれるかも。」

と、姉さんもおうえんしてくれた。

次の土曜日から、ぼくは練習に参加した。練習はともきびしかった。投げるだけじゃ野球はで



自分の良い所をのばそう

●自分の良い所をどのようにしてのばしていきたいですか。

3年

4年



きない。足こしを強くする走りこみもすぶりもノックも、へとへとになるまでがんばった。

チームに入って、もう一年になる。あるとき、みんなが言ってくれた「いいかたしてるね。」の言葉が、ぼくの元気のもと、おまじないの言葉になった。そして、いつも出られるとはかぎらないけれど、試合にも出してもらえるようになった。

いつの間にか、ぼくは、さか上がりができるようになっていた。とび箱もらくらくとびこせるようになった。五十メートル走のタイムも良くなった。もう一年前のぼくじゃない。

おまじないの言葉は、ぼくを元気にして、いい所をたくさん伸ばしてくれた。

ぼくの野球チームには、ずっと野球を続けて、甲子園に出場した先輩がたくさんいる。

ぼくもいつか、甲子園に行けるかもしれない。

もしかしたら、イチロー選手みたいに大リーグで活やくする日も夢じゃない。

人と関^かわ^かつて

- (1) だれ^{たい}に対^{たい}しても真^ま心^{ごころ}をもつて
- (2) 相^{あい}手^てを思^{おも}いやり親^せ切^きに
- (3) 友^{とも}達^{だち}とたがいに理^り解^{かい}し合^あって
- (4) そんけいと感^{かん}謝^{しゃ}の気^き持^もちをもつて

(1) だれに対しても真心をもって

礼^{れい}ぎで通^とい合^あう心

わたしたちは、いろいろな人といっしょに生活をしています。
相手^{あいて}を大切に思^{おも}う気持^{きもち}ちを形^{かたち}にして礼^{れい}ぎ正^{ただ}しくふるまえば、たがいの心^{こころ}が通^とい合^あいます。

あいさつ

- ・「おはようございます。」
- ・「さようなら。」
- ・「行ってきます。」
- ・「こんにちは。」

行^いってきま^ます。

行^いってら^らっし^しや^やい。

● 他^{ほか}に知^しっているあいさつを書^かきま^まし^しよう。

「元^{げん}氣^きにがんばって
くるよ」という
気持^{きもち}ち

「元^{げん}氣^きにすごしてね」
という気持^{きもち}ち



言^{こと}葉^はづかい

- ・電話^{でんわ}のとき^{とき}の受^うけ
答^{こた}えの例^{れい}

〇〇ですが、
お父^{ちち}さん
いらっし^しやいま^ますか。

はい、おりま^ます。
しば^{しば}らくお待^{まち}ち
くだ^{くだ}さい。

- 友^{とも}達^{だち}と話^{はな}すときと
大^お人^{ひと}と話^{はな}すときと

では、ど^どのよう^{よう}な
こ^ことに氣^きを付^つけて
言^{こと}葉^はを使^{つか}い分^わけれ
ばよ^よいでし^しようか。



自^じ分^{ぶん}の名^な前^{まえ}を明^あら^らか
に^にしてだ^だれと話^{はな}した
い^いか^かを^をは^はっ^っき^きり^りと伝^{つた}
え^える。
相^あ手^てを^をう^うや^やま^まう言^{こと}葉^は
を^を使^{つか}う。

相^あ手^ての用^{よう}件^{けん}に答^{こた}え^えて
返^{へん}事^じを^をし、相^あ手^てが氣^き
持^{もち}ちよ^よく待^{まち}て^てるよ^よう
な言^{こと}葉^はを^をか^かけ^ける。

3年		
礼 ぎ	一週目	
	二週目	
	三週目	
	四週目	

4年		
礼 ぎ	一週目	
	二週目	
	三週目	
	四週目	

礼^{れい}ぎ名人^{めいじん}を目指^{めざ}そう

あいさつ、言葉^{ことば}づかい、ふるまいなど、礼^{れい}ぎは毎日の生活の中にあります。

●心がけてみようと思う礼^{れい}ぎを書いて、できたかどうかをたしかめてみましょう。

◎よくできた ○だいたいできた

ふるまい

- ・マナーに気を付けて食事^{しょくじ}をする。
- ・相手^{あいて}を見て話を最後^{さいご}まで聞く。
- ・周り^{まわ}の人に気配^{きくば}りをする。

荷物^{にもつ}をお持ち
しましょうか。

ありがとう。

●他^{ほか}にふるまいで気を付けることを書きましょう。



大^{たい}変^{へん}そうだから
助^{たす}けたいという
気持^{きもち}ち

気配^{きくば}りをして
らったことへの
感^{かん}謝^{しゃ}の気持^{きもち}ち

日本の文化の中にある礼_{れい}ぎ

茶_さ道_{どう}や華_か道_{どう}は、今に伝_{つた}わる日本の文化です。これらの作_さ法_{ほう}や型_{かた}には、相_あ手_てを大切に思_{おも}う気_き持_もちがこめられています。

茶_さ道_{どう}

お湯_ゆをわかしてお茶をたて、人にお茶をふるまいます。

お茶の作法には、一_{いち}期_ご一_{いち}会_えの気_き持_もちで相_あ手_てをもてなして、そのときのおたがいの心の通_とい合_あいを大切にするという気_き持_もちがこめられています。



「一期一會」とは、
「あなたとこうして出_で会_{かい}っ
ているこの時間_{じかん}は二_に度_どと
ない、たった一_{いち}度_どきりの
ものだから、この一_{いち}しゅ
んを大切に思_{おも}い、今_{いま}でき
る最_{さい}高_{こう}のおもてなしをし
ましよう」
という意_い味_みがあります。

華_か道_{どう}

植_{しょく}物_{ぶつ}をうつわに美_{うつく}しく見_みえるように生_{せい}けま
す。

生_{せい}け方_{かた}にはいろい
ろな型_{かた}があり、工_く夫_{ふう}して
生_{せい}けられた花_{はな}は、見_みる
人_{ひと}の気_き持_もちをゆたかに
してくれま_ます。



おもてなし

二〇二〇年のオリ_{オリ}ンピッ
ク・パ_パラリンピッ_クを東京_{とうきょう}に
まねくためのスピー_{スピー}チで、日_に
本の「おもてなし」とい_{こと}う言_{こと}
葉_はが話_わ題_{だい}になりました。



「おもてなし」は、人_{ひと}のこ
とを考_{かん}え、人_{ひと}を大_{だい}切_{せつ}にする_{する}ふ
るまいであり、礼_{れい}ぎの一_{いち}つです。



たん生日をむかえた
友達に、お祝いの手
紙を書こう。

喜んでいいる人がいたら、うれしく思える心



がんばってやりとげた
人に、はく手をしよう。

● 思いやりの心が表せたときのことを書
きましよう。



思いやりの心があると、
自分も周りの人も
えがおでいっぱいになります。
たくさんの人に、
思いやりの心を
広げていきましよう。

(2) 相手を思いやり親切に

思いやりの心とは、どのような心でしょう



こまっていたら
手伝おう。

こまっている人がいたら、助けたいと思う心



お年よりに
席をゆずろう。

悲しんでいる人がいたら、気づかおうとする心



さびしい思いを
している人を、
遊びにさそおう。



泣いている人に、
声をかけよう。

人との関わり^{かか}の基本^{きほん}にあるのは「思いやり」

人を思いやる気持ち^{きもち}は、様々な文学作品^{さくひん}の中にも表^{あらわ}れています。

日本の文学作品から

俳句^{はいく}や短歌^{たんか}、詩^し、書^{しよ}などの有名な作品^{ゆうめい}を残^{のこ}した良寛^{りょうかん}は、子どもや周り^{まわ}の人^{ひと}を思いやる温^{あたた}かい心^{こころ}をもち、その気持ち^{きもち}を作品^{さくひん}としても表^{あらわ}しています。

この里に 手まりつきつつ子供^{こども}らと
遊ぶ^{あそ}春日^{はるひ}は 暮^くれずともよし

この里で子どもたちとこうして手まりをついて
いる幸せ^{しあわせ}な春^{はる}の日は、くれないでほしいものだ。

良寛は、子どもたちとかくれんぼやまりつきをしてよく遊んだそうです。
ふところにはいつも手まりを入れていたという話もあります。



良寛
(一七五八～一八三二)
江戸時代の僧^{そう}
歌人、書家

外国の文学作品から

アイルランド生まれの作家オスカー・ワイルドが書いた「幸福^{こうふく}の王子^{おうし}」という作品にも思いやりの気持ち^{きもち}が表^{あらわ}れています。

(あらすじ)

ある町の広場に、金^{きん}ばくでおおわれ、青いサファイアの目、赤いルビーの付いたけんをたずさえた「幸福^{こうふく}の王子^{おうし}」のどうぞうが立っていました。そこに、南にわたる途中^{とちゅう}のつばめがやってきます。「つばめさん、悪い^{わる}がわたしに力をかしてくれないか。うら通りの小さな屋根^{やね}うら部屋^{へや}で母^{かあ}さんが泣^ないている。病^{びやう}気^きでねている男の子のそばで、薬^{くすり}も食べ物^{もの}も買^かえずにいるんだよ。わたしのルビーをとどけてやってくれないか。」

「わたしは南の国へ帰らなければなりません。けれど一ばんだけお役^{やく}に立ちましょう。」
つばめはルビーをぬき取^とると、それを屋根うら部屋のお母さんの所^{ところ}へとどけました。

その町の全^{すべ}ての悲^{かな}しみが見える王子は、つばめにたのんで、目のサファイアも体をおおっていた金^{かな}ばくも全てこまっている人の所^{はこ}へ運^{はこ}んでもらいました。つばめも、王子の気持ち^{かん}を感じ^{かん}じて、王子の願^{ねが}いを聞^ききました。

冬^{ふゆ}がやってきて、つばめは寒^{さむ}さにこごえてとうとう動^{うご}けなくなりました。そして王子も……。

この話の最後^{さいご}がどうなったのかを、図書室などの本で読んでみましょう。



「ありがとうございます。でも、家まですぐだからいいですよ。」
 とにっこり答えて、歩いていった。ぼくは、せっかく声をかけた
 のに……と残念に思った。よく見ると、そのおばあさんはかた方
 の足が少し不自由で、歩くのが大変そうだった。
 家に帰って、そのことをお母さんに話すと、
 「いいことをしたわね。はやとのはしたことは、少しもまちがって
 いないわよ。おばあさんは、きっと心の中で喜んでいらっしや
 るわ。実は、あのおばあさん、最近引っこしてきた人でね、お
 すめさんから聞いた話なんだけど、病気で体が不自由になって
 いたのを、歩く練習をして、あそこまで治ってきたそうよ。」
 (そうだったのか。)と、ぼくは、おばあさんの本当の気持ち
 分かったような気がした。

数日後、ぼくは、またあのおばあさんに会った。とても暑い
 日で、立っているだけでもつらい日だった。ぼくは、家に用事が



学校が終わって、ぼくは家に向かう道を急いで歩いて
 いた。お母さんのお手伝いをする約束をしていたからだ。
 家の近くまできたとき、荷物を持ってよいしょよいしょ
 と歩いている一人のおばあさんに会った。大きな荷物
 ではないが、とても重そうだった。
 ぼくは、それを見て、知らないおばあさんだけど、声
 をかけようかと思った。でも、まよった。お母さんとの
 約束も大切だったからだ。
 でも、ぼくの目の前にいるおばあさんはとても苦しそ
 うだ。どうしようか……。
 すると、おばあさんが石につまずいて転びそうになっ
 た。ぼくは思わず、
 「荷物、持ちます。」
 と声をかけた。ところがおばあさんは、



あったけれど、じっとおばあさんのことを見ていた。

おばあさんは、不自由な足を一生けん命動かして坂を上っていた。今日は、なんだかこの前より足どりが重いような気がした。

（声をかければ、またことわられるだろうか。家にも急がないといけない。でも、このままでいいのだろうか。こまったな。）

ぼくは、改めておばあさんを見た。おばあさんは、不自由な足を動かして、一生けん命歩いていく。おばあさんのひたいには、あせが光っていた。

（ぼくは、おばあさんに何ができるだろう。）

しばらく考えてから、そっとおばあさんの後ろをついて歩いた。

家に向かう長い坂を上り切ると、おばあさんの顔がほっと明るくなった。おばあさんのことを心配してげん関で待っている

むすめさんのすがたを見つけたのだ。

「だいぶ歩けるようになったねえ。」

というむすめさんの言葉に、おばあさんはにっこりして、それはそれはうれしそうな顔をした。そのえがおを見て、ぼくの心はぱっと明るくなった。

（もう、大じょうぶ。）

ぼくはほっとおねをなでおろした。そして、おばあさんがむすめさんのところに着いたのを見るとどけて、家に向かって歩きだした。

ぼくは、今、おばあさんと『心と心のあく手』をしたような気がした。そして、最初に声をかけたぼくと、心の中でおうえんしながらそっと見守ったぼくを思い出して、本当の親切とは何かが少ないだけ分かった気がした。

(3) 友達とたがいに理解し合って

友達がいてよかった

友達がいてよかったと思うのは、
どのようなときですか。

悲しいとき、
なぐさめてくれる。



こまったとき、
相談に乗ってくれる。



もっとたくさんの友達をつくるために、
もっと友達と仲良くするために、
どうすればよいのでしょうか。

いっしょにいと
楽しくすごせる。



友達づくりのひけつを 漢字から学ぼう

たくさんの友達をつくり、
仲良くなっていくなために
大切なこととして

「助け合うこと」があります。

「助」という字を、

漢字辞典で調べてみましょう。

助



あなたは、友達と
たがいに「助け合って」
生活していますか。

〈標語の例〉

手と手と手 みんなできずく 仲間の輪

がんばろう 一人じゃないよ ぼくがいる

「それはだめ！」友達だから わたしは言う

元気出せ 友達みんな おうえん団

見つけたよ キラキラ光る 友のよさ

●自分で作った標語を書いてみましょう。

友達の良い所を見付けよう

みんなすてきな良い所があります。
友達の良い所をさがしてみましよう。

(例)

友達の名前

やました
山下ゆき子さん

良い所

こまっている人
を見かけたら、い
つも声をかけてあ
げています。
やさしくて思い
やりがあると思
います。

友達の名前

良い所

友達の名前

良い所

友達の名前

良い所

友情って何だろう

この問題の答え、
分からないよ。



友達だから
答えを教えて
あげた方が
いいのかな。

いつも
負けてばかりだ。



友達だから
たまには
負けて
あげた方が
いいのかな。

● 本当の友達って何だろう。友情って何だろう。
考えたことを書いてみましょう。

今日の当番、
したくないな。



友達だから
代わって
あげた方が
いいのかな。

歌のコラム

友達の歌

See You (シーユー)

作詞 風琳

ひとりぼっちになって考えた
人間一人じゃ 何もできないって
展覧会 運動会 学芸会も
クラスの人などで力を合わせた
困ったときに先生がいる
つらいときには友だちがいる
どんなに泣きたい時でも
いつも 笑って いろいろ
友だちがいっぱいできるのは
君の笑顔がステキだから
大きくなって 大人になって
またどこかで会おう! See You!

すてきな友達

作詞 梶賀千鶴子

人はみんな だれでも
一人では 生きていけないから
いつも すてきな友達と この手をつなぐのさ
悲しいときも 仲間がいれば つらくはない
苦しいときも 仲間がいれば つらくはない



同じ仲間だから

「今度こそがんばらなくては。」

「負けるものか。でも、やっぱり無理かな。」

運動会が近付き、今日の体育は学級対この「台風の目」という競技の練習です。この競技は、三人一組が横にならんで竹のぼうを持ち、前方に立てられた二つの旗をできるだけ早く回ってくる競争です。二組の教室では、登校してきた人たちが、その話に夢中でした。

とも子が教室に入ると、

「ひろし君も、ともちゃんもがんばってね。」

という声が聞こえました。ひろしは、

「だって、ぼくたちのグループには、光夫君がいるんだものな。ともちゃん。」

と、とも子の方をふり向いて不満そうに言いました。とも子も、「そうねえ。」と、相づちを打ちました。

光夫は、何をするにもおそいのですが、運動は特別苦手なのです。この前の練習のときは、光夫と組んでいたとも子たちのグループがおくれたので、二組が負けてしまいました。また、水泳大会のリレーでも光夫がぬかれて負けたことがありました。そのため、負けることが多い二組の人たちは、（今日こそ勝ちたい。）と強く思っていました。

みんなは、いつの間にか教室の後ろの方に集まって、どうしたら勝てるか相談を始まりました。とも子もひろしも、その仲間に入りました。

そのとき、ランドセルを背負った光夫が教室に入ってきました。

「おはよう。」

みんなは、光夫とあいさつをしながら、おやつと思いました。光夫の指には包帯がまいてあったからです。だれかが、「光夫君、どうしたの。」と聞くと、光夫は、

「自転車のそうじをしていて、指をはさんでしまったんだ。」

と言いながら、背中のランドセルをおろして、つくえの上に置きました。

ひろしは、何を思ったのか、光夫にかけより、

「光夫君、今日の体育はどうするんだ。休むのかい。」

と聞きました。光夫は、

「ぼく、休まないよ。指だから体育はできるよ。ほら。」

と、包帯をしている指を顔の辺りまで上げて、ぴくぴく動かし、見せました。

「そうかい。でも、休んだ方がいいんじゃないか。ともちゃん、どう思う。」

とも子は、ひろしの言葉にはっとしました。（そのくらいのけがだったらできるはずだ。光夫さんを休ませるなんて、そんなことはない。でも、光夫さんが入ればやっぱり……）

「そうね。でも……。」

とも子は、返事にこまってしまいました。

とも子のはっきり答ええないまま、自分の席にもどりました。



そのとき、ふと、この前の日曜日のことを思い出しました。

その日、家に帰ったとも子に、遠くに転校した同級生のよし子から手紙がとどいていました。その手紙には次のようなことが書かれていました。

ともちゃん、わたしは今、とってもつらいの。それは、わたしのしゃべる言葉が、こっちの人たちと全然ちがうために、みんなに笑われたり、仲間外れにされたりすることがあるの。わたしは、早くみんなと仲良くなりたいから、こっちの言葉になれるように努力しているのよ。でも、すぐには無理なの。言い方が少しぐらいちがっても、思っていることやしていることは同じなのに。でも、がんばってみます。ともちゃんに会いたい。会って今までの言葉で自由に話したい。

（仲の良かったよし子さんが、ただ言葉が少しちがうという理由だけで、仲間外れになっている。そんなことがあってはいけないのに……）そう思っているうちに、とも子ははっとしました。

とも子は、自分の席からすっと立って、ひろしたちに近付きました。

「ひろしさんたち、光夫さんを外して勝とうとするなんて、まちがっていると思うの。同じ二組の仲間じゃないの。」

と、きびしく、はっきりと言いました。ひろしは、小さい声で、「だって。」

とつぶやきましたが、とも子のまじめな顔を見てだまってしまいました。

「光夫さん、がんばろうね。」

光夫は、初め、きよんととしていましたが、すぐに、うれしそうに、

「うん。」

とうなずきました。

体育の時間になり、いよいよ「台風の目」が始まりました。

ひろしが、

「光夫君は、真ん中に入るんだったね。」

と言うと、とも子が、

「そうよ。光夫さん、ひろしさん、がんばろうね。」

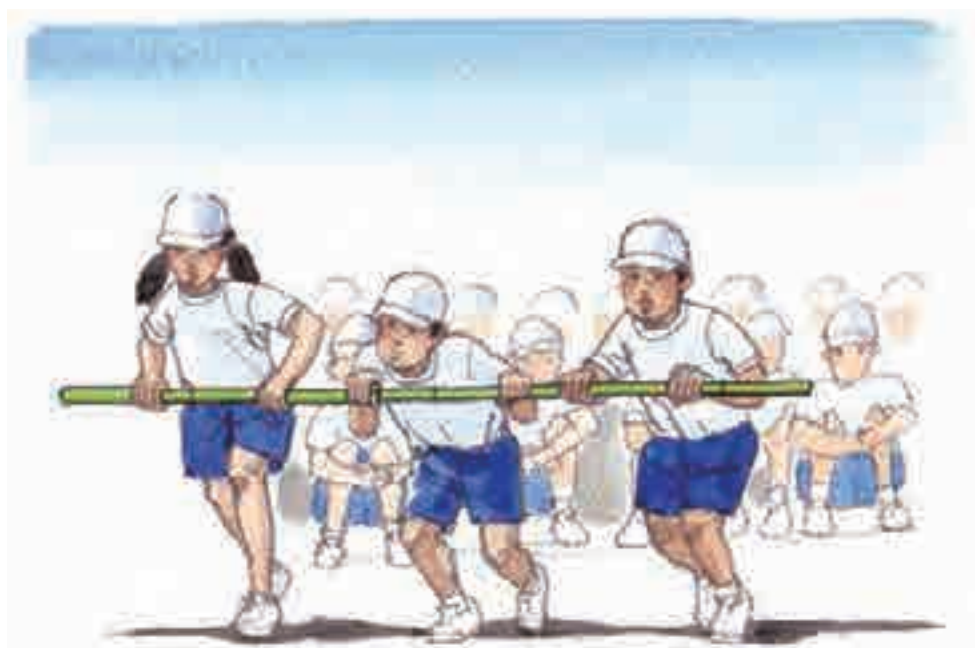
とはげました。

「うん。がんばる。」

と、光夫が元気に答えたとき、とも子たちにぼうがわたりました。

「わあっ。がんばれ、がんばれ。」

一だんと大きくなったおうえんの声が、運動場に広がりました。



ささえ合い 助け合い

「合い」の力で 心と心をつなげよう

みんなの力を合わせれば、一人ではできないことだってやりとげられることがある。
学級や学校の仲間と、家族のみんなと、地いきの人たちと、「合い」の力でつながろう。

ロンドンオリンピック、男子四〇〇メートルメドレーリレーチームは、「合い」の力を発きして、銀メダルをかく得しました。

四〇〇メートルメドレーリレーで銀メダル以上を手にしたのは、男女を通じて、日本競泳史上初めてのことでした。

「二十七人で一つのリレーをしていた。四年前は銅だったので、銀をとりたいと思っていた。達成できて本当にうれしい。」

メドレーリレーチームの一人である入江陵介選手は、チームの四人だけでなく、日本代表として参加した競泳選手二十七人全

員の力がつながり合って、銀メダルをとれたと語りました。



家庭で

学校で

地いきで

●あなたは、どのような人にささえられているのでしょうか。毎日の生活をふり返ってみましょう。



(4) そんけいと感謝の気持ちをもって

生活をささえてくれている人たち

たくさんの人たちの力でわたしたちの毎日の生活はささえられています。

今のくらしをつくったお年よりたち

わかいころから、
米作りをしていま
す。

日照りや台風と
向き合いなが

ら、一生けん
命に働いてき
ました。



日本人にとって
お米は大切な
食べ物だからね。



便利になった
とみんなが
喜んでくれて
うれしかった
よ。

海の中にトンネルを通す工事をし
ました。失敗と苦勞の連続でしたが、
本州から北海道まで車や電車で行け
るようになりました。



病気になるったり、
あぶない目に
あったり大変
でしたが、
たくさんの方が
外国のことを
知るきっかけに
なりました。

まだ日本人が行ったこと
のない外国のジャングルの
様子を初めてさつえいして、
テレビ番組を作り、しやう
かいしました。

● あなたの周りにお年よりに、これまでどの
ような仕事をしたらか聞いてみましょう。そ
の話を聞いて、思ったことを書きましょう。

3年

4年

だれかの生活をささえられる人に

朝がくると

まど・みちお

朝がくると とび起きて
ぼくが作ったのでもない
水道で 顔をあらうと
ぼくが作ったのでもない
洋服を きて
ぼくが作ったのでもない
ごはんを おしゃむしゃたべる
それから ぼくが作ったのでもない
本やノートを
ぼくが作ったのでもない

ランドセルに つめて
せなかに しょって
さて ぼくが作ったのでもない
靴を はくと
たったか たったか でかけていく
ぼくが作ったのでもない
道路を
ぼくが作ったのでもない
学校へと
ああ なんのために

いまに おとなになったなら
ぼくだって ぼくだって
なにかを 作ることが
できるように なるために



● あなたの生活をささえてくれている人に感謝の気持ちを書いてみましょう。

Two vertical rectangular boxes for writing, each with a small arrow pointing upwards at the bottom.

命いのちを感じてかん

(1) 命あるものを大切に

(2) 自然しぜんや動植物どうしよくぶつを大切に

(3) 美しいうつくものを感じて

それは、
思い切りがんばること。
命をかがやかせること。



一生けん命^{めい} 生きる！

4年	3年

● 「生きているってすばらしいな」
と感^{かん}じるのは、どのようなときでしょう
か。

(1) 命^{いのち}あるものを大切に

生きているってどのようなことでしょうか

わら
笑ったり泣^ないたり
することかな。

びようき
病^び気やけがをしても、
くじけない力を
もっていることかな。



おいしく
ご飯^{はん}を食^くべられる
ことかな。

思い切り
力^{ちから}を出せる
ことかな。



食事をいただくことは命をいただくこと。
 たくさんの命にやさえられてわたしたちは生きています。

● 命の大切さを感じたできごと
 を書いてみましょう。

4年	3年



助け合^{たす}って生きている 一生けん命^{めい}生きている
 わたしたちは、多くの人にやさえられて生きています。
 生きているからこそわたしたちも、多くの人をやさえることができます。

命あるかぎり生きる

命

宮越由貴奈（小学四年）

命はとても大切だ
人間が生きたための電池みたいだ
でも電池はいつか切れる
命もいつかはなくなる
電池はすぐにとりかえられるけど
命はそう簡単にはとりかえられない
何年も何年も
月日がたつてやっと
神様から与えられるものだ
命がないと人間は生きられない
でも

「命なんかいらない。」
と言って
命をむだにする人もいる
まだたくさん命がつかえるのに
そんな人を見ると悲しくなる
命は休むことなく働いているのに
だから私は命が疲れたと言うまで
せいっぱい生きよう

●この詩を読んで、「命」について考えたことを書いてみましょう。

これは宮越由貴奈さんが、＊いんないがつきゅう院内学級の授業で感
じたことを書いた詩です。

由貴奈さんは、平成十（一九九八）年六月二十八
日、五年半におよぶ病びょうき気とのたたかいの末、この世
を去りました。

十一さい――。由貴奈さんの命の電池はしずかに
切れました。

＊院内学級入院中の子どもが、教育を受けることができるよう病院内につくられた
教育しせつ。



まわ周りを明るくしてくれる由貴奈さん
赤ちゃんのおしめも取りかえてくれる由貴奈さん
泣いている友達をなぐさめてくれる由貴奈さん
自分の悲しみはそと一人で泣いてはらしていた由貴
奈さん
自分の食が細くなってしまったとき、友達のはげまし
を受けて、すごく努力して逆に太ってしまった由貴奈
さん
由貴奈さんが再入院してくると、みんなが「自分たち
の部屋に来て」と言った。

かんどう院内学級担当の先生が、由貴奈さんのことを書いたものです。

ヒキガエルとロバ

雨上がりの畑道。学校帰りのアドルフとピエールたちの前に、ヒキガエルが一ぴき、とび出してきた。

「うわっ。なんだ！」

「気持ち悪い！」

「ヒキガエルだぞ！」

「石をぶつけてやれ！」

子どもたちは口々にそうさけびながら、ヒキガエルを目がけて、小石を投げつけ始めた。

「当たった、当たった。」

「もっと石を持ってこいよ。」

アドルフに言われて、ピエールたちは、道ばたから石を集めてきた。

ヒキガエルは、子どもたちに追われながら、どろんこ道にある車のわだちへ転がりこんだ。



ちょうどその時、年をとったロバが、荷車を引いてやってきた。荷車だけでなく、背負っている大きなかごにも、野菜がいっぱいに積まれていた。荷車に乗った農夫から、たえずピシリピシりとむちが打たれていた。きっと一日のつらい仕事を終えて、自分の馬屋に帰っていく長い道のりの途中なのだろう。一步一步ふみしめるように、どろんこ道を進んできた。

「アドルフ、ヒキガエルのやつ荷車にひかれるぞ。」

「そっちを見ている方がおもしろそうだ。」

アドルフたちは、見守った。

ガタン、ゴトン、ガタン、ゴトン。くぼみにロバが近付いてくるが、坂道にあるわだちのあとがでこぼこで、なかなか前に進まない。

農夫は、ぐいぐいとたづなを引っ張り、むちを打ち続ける。

「ハアハア……。」



わだちをつけていったのである。荷車はヒキガエルのいるくぼみの横を、ガタン、ゴトンと大きな音を立てながら、通りすぎたのだった。

ヒキガエルは、助かった。

それを見ていたアドルフの手から、石が足元に静かにすべり落ちていった。ピエールたちも何も言わずに立っている。

やがて、荷車の音もロバのいななきも遠くになっていった。子どもたちは、くぼみの中で小さく息をしているヒキガエルと、遠く去っていくロバのすがたを、いつまでもいつまでも、ながめていた。

ロバの息があらくなる。一步一步近づいてきたロバはそのときふと、自分の足元できずを負って、じっとしているヒキガエルに気が付いた。

くぼみの中のヒキガエルは、もう動く力もないようだった。

ロバは、目をしてしている小さな生き物に鼻を近づけ、友達を見るようなやさしい目でじっと見続けていた。

農夫は、急に前に進まなくなったロバにはらを立て、何度もむちを打っている。

「ヒヒーン！」

とつ然ロバはいなくなると、グリーンと足をふんばった。自分に残った全ての力をふりしぼるかのように、歯を食いしばって、足に力を入れたのだ。背負ったかごが横にふられた。重い野菜がたくさん積んである荷車も少し動いた。ロバの顔は、さらに苦しそうになった。そしてついに、車輪はゆっくりと動きだし、新しい



たった一つの命 つながる命

「生きているって…」

葉 祥明

空を見上げると

白い雲が浮んでいる

お日さまが輝いている

この世は素晴らしい！

生きているって不思議！

泣いても、笑っても

歌っても、倒れても

何が起こると、起るまいと

全て、うれしいこと

ネコがいる、犬がいる

小鳥がいる、虫がいる

大好きな家族がいて

仲の良い友達がいる

皆がいるからうれしい

それもこれも

僕がこうして生きているから

生きているって、すごい！

(2) 自然や動植物を大切に

動物や植物の生命の力

きくづくり

わたしたちの学校では、一人一はちさいばいで、一輪ぎくを育てています。きくづくりはむずかしいので、学校の近くのきくづくり名人の山田さんに教えてもらいながら、大事に育てました。

秋が近づいて、きくはつぼみを付けました。

ある日の夜に、強い風がふきました。わたしは、きくは大じょうぶかなと心配になりました。

次の朝、学校に行くと、わたしのきくのくきが折れていました。

(もう花は、さかないのかな……。)

わたしは、折れた所をじっと見つめました。

学校から帰って山田さんの所に行くと、山田さんは、学校までいっしょに来てくれました。

「ささえをそえて水をたくさんあげてみよう。何とか花がさくかもしれないよ。」

それから、わたしは水をあげてきくの様子を毎日、見に行きました。

一週間後のことです。きくは黄色い花びらを広げていました。

「やった。さいた。元気になった。」

わたしは、花びらをそっとなでてみました。



動物や植物の不思議な力

わたり鳥のたい列

V字になると後ろを飛ぶ鳥が上向きの気流に乗れるので、少しの力で飛ぶことができま
す。先頭の鳥は、体力を使うので、時々後ろの鳥と交代するそうです。



アブラゼミの羽化

アブラゼミは、土の中でおよそ六年間をすごし、地上に出てからは、一生けん命鳴き続けて二、三週間ほどで命を終えます。



サケの稚魚

サケの稚魚は、川を下って海に出て成長し、二、三年ほどで自分が生まれた川にもどってきます。



いしわりざくら

大きな石にかみなりが落ちてできたわれ目に、サクラの種が落ちて成長したと言われています。



(岩手県盛岡市)

動物や植物の生命の力を感じて

動物や植物には、力強く成長し生きようとする力があります。

● 動物や植物の生命の力におどろいたことはありませんか。そのことを書いてみましょう。

3年

4年

歩道のアスファルトのすき間から生えてきた大根。「ど根性大根」とよばれました。
(兵庫県相生市)



自然や動物、植物との関わり

●自然や動物、植物とのこれまでの関わりを振り返って書いてみましょう。

かったり、育てたりしたこと

大切にしたこと

不思議だな、すばらしいなと思ったこと

人物のコラム

植物と共に生きた人

牧野富太郎

牧野富太郎は、子どものころから植物が大好きで、近くの野山へ行っては、植物を観察していました。自分がこれまで見たこともない植物を見付けると、心がわくわくして、絵にかいたり、名前を調べたり、植物のつくりを観察するなどして、その不思議をとき明かしていくことに夢中でした。二十二さいになると、富太郎は東京に行き、大学の研究室で植物学を学んだり、自分で全国を歩いて植物の研究を行ったりしました。富太郎は、たくさんの植物を観察し、とても細かく植物の様子をかきとめて、植物図かんなどを記しました。

富太郎が記した「牧野日本植物図鑑」は、当時まだあまりくわしく知られていなかった植物のことを世の中の人に知らせるものとなりました。

また、「ムジナモ」など、これまで知られていなかった植物を発見し、一五〇〇種以上の植物に名前を付けました。

植物を愛し、植物と共に生きた富太郎は、今では「日本の植物分類学の父」とよばれています。



牧野 富太郎

(一八六二～一九五七)
高知県出身の植物学者



牧野富太郎がかいた植物のスケッチ

4年	3年

● 人間の力をこえた自然の風景などに感動したことがありますか。そのときのことを書きとめておきましょう。



(3) 美しいものを感じて

美しい自然は、
わたしたちに
感動をあたえてくれます。
そして、
そこに宿る神秘的な力に
おどろかされることもあります。

三代杉

鹿児島県の屋久島には、じゅれい二千年代から七千二百年ともすい定される縄文杉の他、大王杉や夫婦杉、三代杉などと名前が付けられた大きな屋久杉があります。

三代杉は、三代にわたって命をつないできためずらしい杉です。
一代目の杉は、今から約三千五百年前に生え、二千年ほど生きてたおれました。その後、たおれた木の上に種が落ちて、芽を出して二代目となりました。
二代目は、一千年ぐらい生きて、切られてしまいました。
ところが、その切りかぶから三代目の杉が成長し、命をつないで、今、「三代杉」として生きています。

花さき山

(あらすじ)

斎藤隆介・文
滝平二郎・絵



たった十さい
のおなごわらし
のあやは、山で
まよってしまい
ます。
その山で出
会った山んばに、
いちめんにさく
美しい花のひみ
つを教えてください
ます。



ふもとの村の人間が、やさ
しいことを一つすると、一つ
さく花。
そこには昨日、あやが妹の
そよのために泣く泣くお祭り
の晴れ着をあきらめ、
「おらはいらねえから、
そよさかってやれ。」
と言ったときにさいた美しい
花がありました。



わたしたちの心が動くのは、感じる心があるから

さいている花を見ると思う。この花をさかせている
ものは、一体なんなんだろうーと。

青空にそびえる山を見ると思う。山を大地からもり
上げた力、今も中から張って、空にそびえさせている
みなぎる力は一体なんなんだろうーと。

この世のものとも思えない花の中の花、山の中の山、
その山がその花をさかせている所—それが花さき山です。

われわれは一人ではなくてみんなの中の一人です。
みんなの中でこそ、みんなとのつながりを考えてこそ、
自分が自分なのです。そしてさらに、自分のためだけ
でなく、みんなのために生きようとする人々が大勢出
てきました。

だれもがもっているそういう心の花の芽を、山を生
み出すまでの力にもり上げられたら、自分は、みんなは、
どんなにかすばらしくなることでしょう。

斎藤隆介「『花さき山』に添えて」より

あなたは、「花さき山」のあらすじを
読んでどのようなことを感じましたか。

◆図書室には、人の心の美しさや自然の
すばらしさなどを書いた感動する本が
あります。
こうした本を読んで、感想を話し合っ
てみましょう。

富士と北斎

昔、富士山の見える東海道の道を、てくてくと歩いていく旅人がいました。この人は、北斎という絵かきでした。

北斎は、江戸を出発してから、遠くの山や森の向こうに、ちらちらと富士山が見えだすと、思わず足を止めました。そして、うっとりとながめ、つぶやきました。

「ここで見る富士山は、さっき見たのとは少しちがっている。」

江戸をたつてから二、三日……。なんと様々に見えるのでしよう。富士山のすがたは同じでも、やさしく見えるときや、にっこりほえんでいるとき、つんとすましているようなときもあります。朝の富士山、夕暮れの富士山……。北斎は、おねをわくわくさせました。道ばたに立って、夢中になって富士山を写しとりしました。

半年ほど旅を続けて、北斎は江戸へ帰ってきました。北斎は浮世絵をかく人でした。浮世絵というのは、昔の版画です。北斎のかいた絵は大変な人気でした。人々は長い旅をした北斎が、どんな絵をかくのか待ちました。しかし、一つもかこうとはしません。

四、五年たつと、北斎はふたたび江戸から出ていきました。そして、前と同じように東海道を旅

していきました。箱根の山をこえると、北斎の目はかがやきだしました。すみわたった空に、くつきりと秋の富士山がそびえ立っていました。北斎の帳面は、富士山でいっぱいになりました。かききれないことはしっかりとおねの中にたたきこみました。そして、北斎は（ああ、この山をどんなふうにかき表したらよいだろう……）と、考え続けました。

一年あまり旅を続け、北斎は江戸に帰ってきました。江戸の人々は、北斎の絵を待ちましたが、北斎はかきませんでした。そして、五、六年の月日がたちました。

ところがある日、何を思ったのか、北斎はにこにこしながら、仕事部屋へ入っていきました。そして、半月ばかり絵筆を紙に走らせていました。

「さあ、できたよ。やっとできたよ。」

そう言って、仕事部屋から出てきました。北斎は、富士山をかいたのです。すばらしい富士山の絵でした。北斎が最初に富士山を見たときから、二十年近くもたっていました。その間、北斎は、富士山と自分がぴったりと一つになるのを、ずっと待ち続けていたのです。



（富士三十六景 神奈川沖浪裏）



葛飾北斎

それから後も、北斎は様々な富士山をかきました。一年に四、五まいずつ、十年ほどかき続けました。どれもこれも、あっとおどろくおもしろい、美しい富士山ばかりでした。遠くからや、近くから見た富士山、夜明けの真っ赤な富士山、大波がわき立っている間から、遠くにながめた富士山もありました。北斎の絵は四十六まいにもなりました。

北斎ほど、様々な富士山をかいた人は他にありません。

「わたしは、一〇〇までも、一二〇までも生きるんだ。わたしが、どんなに富士山が好きか、みんなに見せてやるぞ。」

北斎はかき続けました。

こうして北斎は、「富士山の北斎」となりました。そして、北斎の浮世絵は、日本ばかりでなく海外でも知られるようになりました。



（富士三十六景 凱風快晴）

文化のちがいや時代をこえて、今でも北斎の作品は、世界中で愛されています。

- （*1）江戸 今の東京
- （*2）箱根 江戸から富士山へ向かう途中、今の神奈川県にある地名
- （*3）帳面 物をかくために、紙をとじて作ったノート

富士山は、標高三七七六メートルある日本で一番高い山です。大昔から何度もふん火をくり返して、今の形になりました。ふん火をしていたときは、「美しい山」というよりも「おそろしい山」だったにちがいません。

一方で、こうした火山活動などによって、富士山には大きな岩のどうくつができ、すそ野に広い森林が生まれました。また、富士山の地下から水がわき出ている、その水が川や湖となつて、様々な動物や植物にゆたかなめぐみをもたらしています。

富士山のもつ雄大さ、美しさは、人の力をこえたものとして人々にうやまわれています。そして、平成二十五（二〇一三）年六月、ユネスコの世界文化遺産に登録されました。

みんなと関^かわ^かつて

- (1) 社会のきまりを^{まも}って
- (2) 働^{はたら}くことの大切さを知って
- (3) 家族^{かぞく}みんなで協力^{きょうりよく}し合^あって
- (4) 協力し合^あって楽しい学校^{がっこう}、学級^{がくきゅう}を
- (5) きょう土^あを愛^{あい}する心をもつて
- (6) 伝^{でん}とうと文化^{ぶんか}を大切に



● みんなで気持ちよくくらすための約束やきまりにはどのようなものがあると思いますか。

● 約束やきまりはどうしてあるのでしょうか。

(1) 社会のきまりを守って

約束やきまりを大切にすること

わたしたちの学校や家庭、地いきには、いろいろな約束やきまりがあります。どうしてそのような約束やきまりはあるのでしょうか。

左の写真は、平成七（一九九五）年に六千人以上もの人がなくなるなど、大きなひ害をもたらした「阪神淡路大震災」のときのひなん所の様子です。

ならんでいるのは、家がこわれたり、家族がなくなったり、けがをしたりしている人がほとんどです。

このような苦しいときも、人々はきまりを作り、それを守って、助け合って生活できるようにしたのです。

平成二十三（二〇一一）年の「東日本大震災」のときにも、苦しい中でも、順序を守ってならぶことやルールを守ること、助け合うことなど、みんなのことを考えた行動が多く見られました。

また、各地から救助の人やボランティアの人たちが集まり、ひ害にあった人たちを助け、勇気付けました。



見付けたこと



見付けたこと



見付けたこと



見付けたこと



見付けたこと



見付けたこと

● 学校や地いきで、気持ちよく、楽しくすごすためのきまりやマナーを見付けよう

どの様なものがあるでしょうか。見付けてみましょう。

今では、みんなきまりを守り、楽しく安全にぶら
んこで遊んでいます。



「待っているときは、さくの外にいないね。」
「こみ合う休み時間は、低学年の人が先に使えるようにしようよ。」
「ぶらんこをしている人がおいてから、次の人がさくの中に入るようにしよう。」

代表委員は、ぶらんこを復活させるために話し合いました。

● 学校や学級で、みんなが楽しく安全に生活するためには、どのようなきまりが必要でしょうか。

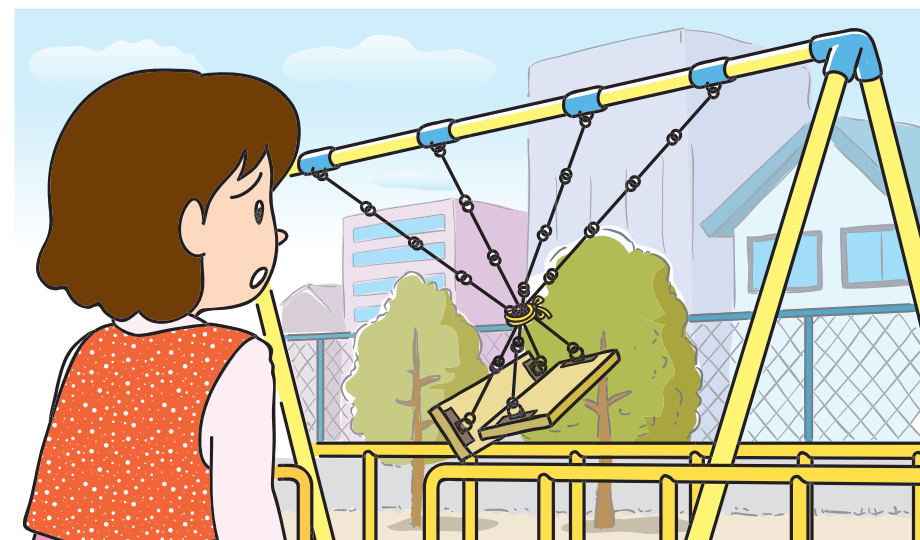
こんな場面で

こんなきまりを

こんな場面で

こんなきまりを

ぶらんこ復活



恵さんの学校では、ぶらんこでけがをする人が多く、先月から使用禁止になってしまいました。

ぶらんこ遊びが大好きな恵さんは、遊べなくなってしまったのでとてもこまりました。

「校長先生、またぶらんこで遊びたいです。」

恵さんは、思い切って校長先生にお願いしてみました。

校長先生はぶらんこの周りにさくを作りましたが、まだ、心配です。

校長先生は、こう言いました。

「ぶらんこを復活させるには、けががないように使うためのルールが必要です。」

みんなもいっしょに考えてくれませんか。」

そこで、児童会の代表委員にも、どうすれば、けがをしないで使えるかを考えてもらうことにしました。



雨のバス停留所で

今日は、お母さんといっしょに、おばさんの家に出かける日です。ところが、朝から雨がふっています。よし子さんは、少しつまらなくなりました。家を出るときには、雨はいっそう強くなり、おまけに風もふいてきました。おみやげが入っている紙ぶくろにも、大つぶの雨がどんどんふりかかります。

バスの停留所では、バスを待つ人たちが、たばこ屋さんのかき下で雨宿りをしています。のかき下に入っても、雨はよし子さんの長ぐつや紙ぶくろにふきつきます。雨宿りをしている人たちは、バスが来る方を時々見ています。遠くの方に、小さくバスが見えました。

よし子さんは、雨の中へタッタツとかけ出すと、停留所で一番先頭にならびました。バスが来たことを知った人たちは、そろそろと停留所に向かって歩き始めました。

その時です。

後ろの方で、お母さんの声が聞こえたような気がしました。よその人の声も聞こえたように思いました。どしゃぶりの雨なので、よし子さんは別に気にもしませんでした。

バスが止まりました。

よし子さんがかさをすばめようとした時、かたが強い力で後ろの方にぐいと引かれました。かたをすっかりつかんだ、ものすごく強い力でした。びっくりしてふり返ると、お母さんの手でした。よし子さんは、はっとしました。それでもお母さんは何も言わないで、よし子さんをお母さんがならんでいた





所^{ところ}まで連れていきました。いつものお母^{かあ}さんの顔とちがって、とてもこわい顔でした。

バスに乗^のる人たちの列^{れつ}が、動^{うご}き始めました。

よし子^{よしこ}さんは首^{くび}を横^{よこ}に出して、ならんでいる人の数を数えました。よし子^{よしこ}さんは、前から六番目でした。一人^{ひとり}一人がかさをすぼめてバスに乗るので、いつもとちがって時間^{じかん}がかかります。

(前の人たちは、どうして早く乗^のってくれないのだろう……。)

よし子^{よしこ}さんは、こんなことを考えながら、少しじりじりした気持^{きもち}ちで前^{まえ}へ進^{すす}みました。

バスに乗りましました。でも、もう席^{せき}は空^{そら}いていませんでした。

(ほら、ごらんなさい。)

と言うつもりで、よし子^{よしこ}さんは横^{よこ}に立^たっているお母^{かあ}さんの顔を見上げました。そんなよし子^{よしこ}

んに知らぬふりをして、お母^{かあ}さんはだま^{だま}ったまま、まどの外^{そと}をじっと見つめています。

いつもなら、やさしく話^わしかけてくれるお母^{かあ}さんです。でも、今日^{きょう}のお母^{かあ}さんは、いつもとは全^{ぜん}然^{ぜん}ちがうのです。

そんなお母^{かあ}さんの横^{よこ}顔^{がほ}を見ていたよし子^{よしこ}さんは、自分がしたことを考え始めました。バスのまどには、大^{おほ}つぶの雨^{あめ}がしきりにふきつけていました。



みんなが守らなくてはならないきまりがある

みんなが集まってくらす上で、一人一人が守らなくてはならないきまりがあります。
どうしてきまりを守らなくてはならないのか、相手の立場に立って考えてみましょう。

みんなが守らなくてはならないきまり

- 一人をきず付けない。
- 一人の物をぬすまない。
- うそを言わない。
- 弱い者いじめをしない。
- ひきょうなことをしない。

人の物をとっては
いけません。

人をきず付けてはいけません。

他にもあるかな。
どのようなことがあるかを
考えてみましょう。

ごまかしたり、
うそをついたり
してはいけません。

弱い者いじめをしてはいけません。

ひきょうなことを
してはいけません。



教師



子どもたちの
日々の成長が、
わたしの喜びです。

日本の
「ものづくり」の
ぎじゅつは、
すぐれて
いますよ。



工場で働く人

野菜の味をよくするように
がんばりました。
ぜひ、食べてください。



農家の人

みなさんのくらしが、
便利になるように
工夫しています。



き業で働く人

●働くことの大切さについて考えてみましょう。

(2) 働くことの大切さを知って

働くことの大切さ

いろいろな場所ですいろいろな仕事をしている人がいます。
人はなぜ働くのでしょうか。働くことの大切さについて考えてみましょう。

かん者さんが元気になる、
わたしたちも
元気をもらえます。



かんごし

人々や町の
安全を守る仕事は、
せきにんもあるし、
やりがいも
あります。



消防士

●あなたがしたい仕事を書いてみましょう。

4年	3年

学校や学級でみんなのためにできること

そうじ当番

《していること》

●教室を、きれいにほうきでします。

《思っていること、がんばっていること》

★みんなが気持ちよくすごせるように、すみのみなどをていねいにはいています。

●学校や学級でしている仕事を、どのようにやっていますか。

学校や学級での仕事

していること

思っていること、がんばっていること

給食当番

《していること》

●おかずをつぎ分けて給食のじゅんぴをします。

《思っていること、がんばっていること》

★おかずをこぼさないように気を付けています。
早くじゅんぴをすませて、みんなで楽しく給食を食べたいと思っています。

先生や友達からの一言

家や地いきでみんなのためにできること

●家や地いきでしている仕事を、どのようにやっていますか。

家での仕事

(せんたくものたたみ、食器ならべ など)

していること

思っていること、がんばっていること

地いきでの仕事

(ボランティア活動、リサイクル活動 など)

していること

思っていること、がんばっていること

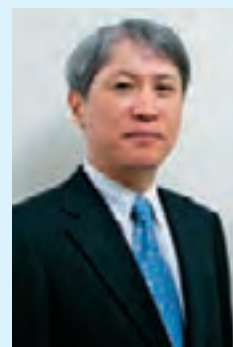


家族からの一言

●仕事をしてよかったと思ったことを書いてみましょう。

働くすがたが、かがやいている人たち

様々な分野で活やくする人たちの仕事に対する思いから、働くことについて考えてみましょう。



あまの 篤 (一九五五)

心ぞう 外科医

一年間に約五〇〇件も手術をこなし、多くの経験を生かしてむずかしい心ぞうの手術も成功させてきた人です。

心ぞうの手術は、医者が途中で「もうできない」と思ったとたんに、かん者の生命が失われてしまいます。このため手術の前には、何度も手術の様子を思い浮かべて、細かく対応のかくにんをします。こうすると、手術中に何かあっても次の方法が思いうかぶので、落ち着いて行動ができます。

ぎりぎりまで自分のできることに全力をつくすことが、かん者さんの命を救うことにつながっています。



こしの 綾子 (一九一三〜二〇〇六)

ファッションデザイナー

多くの人が着物を着ていた大正時代に、人々が活動しやすいように洋服づくりの仕事にはげんだ人です。

大正時代はほとんどの女の人が着物を着ている時代でした。わたしは、外国から伝わった洋服を見て、「人々の体に合ったすてきな洋服をつくって、着た人が喜ぶ顔を見たい。」という夢をもちました。

そのころは、女の人と男の人と同じように仕事を続けるのは大変なことでした。しかしそれでも、わたしは当時めずらしかったミシンを買うことができた。それで百貨店の店員やかんごしの制服などを考え、洋服をつくって、少しずつですが仕事をふやしていきました。



いなか 大 (一九〇八〜一九九七)

技術者、実業家

トランジスタラジオをはじめ、生活をゆたかにする新しい電機製品を開発し、日本けいざいの成長にこうけんした人です。

わたしは、電子機器の会社をつくりました。そして、人々の生活がゆたかで便利になるよう、だれもやらないことにちよう戦して、今までにない新しい電機製品を開発してき

ました。

わたしは、自分の仕事に生きがいを感じることが、幸福なことだと思います。



わたしが病気になったとき

- ・早くよくなってね。
- ・夜もねむれないくらい心配したよ。

わたしをしかるとき

- ・最後まであきらめずにがんばる人になってほしい。
- ・やさしい人になってほしい。

(3) 家族みんなで協力し合って

わたしの成長を温かく見守り続けてくれる人……家族

● 次のようなとき、家族はどんなことを思ったのでしょうか。家族に聞いて書きましょう。

わたしが生まれたとき

- ・生まれてきてくれてありがとう。
- ・元気に育ってね。

わたしが小学校に入るとき

- ・楽しく学校に通ってね。
- ・友達をたくさんつくってね。

●あなたも自分の家族のことをまとめてみましょう。

大切な家族かぞく

あなたにとって家族とは、どのような人たちですか。
あずささんは、次のようにまとめてみました。



おばいちゃん

こまっているときは、
いつもいっしょになん
でくれる。



おばあちゃん

元気がないとき、はげ
まして、おうえんして
くれる。



あずさ



お父さん

わたしたちのために仕事しごとをがんばって
くれている。いろいろな遊びあそびを教
えてくれる。
お父さんが作ってくれる料理りょうりは
おいしいよ。



お母さん

わたしたちのために仕事をがんばっている。
食事しょくじの用意よういやせんたくをしてくれる。しか
られることもあるけど、何でも話せる。



お姉ちゃん

勉強べんきょうや遊びを教えてくれる。けんかも
するけど、いっしょに遊ぶととても楽しい。

家族への思い

家族がいつしよにいられること

いつも元気な弟がとつぜん高熱を出しました。何日も続いたある日、祖父と祖母が学校にわたしをむかえにきました。わたしはとても不安になりました。祖母から、弟が入院したこと、わたしと父は祖父の家でくらすことを聞きました。

母とは毎日少しでも電話で話しました。さみしかったけれど、弟のためにわたしもがんばろうと思いました。

弟の退院が決まって、父と二人で病院にむかえにいくとき、うれしくて、早く会いたくて、むねがドキドキしました。

病室に着くと、母が「よくがんばったね。ありがとう。」と、ギュッとだっこしてくれました。心の中がやさしい気持ちでいっぱいになりました。弟とけんかして、母におこられることもあるけれど、家族が元気で、いっしよにいられるということはすごく幸せなことだと感じています。

(小学三年生の作品)



●あなたが家族に伝えたい気持ちを書いてみましょう。

●家族のために、がんばりたいことはどのようなことですか。

4年	3年



ブラッドレーのせい求書	
お使い ^{つか} ちん	1ドル
おそうじした代 ^{だい}	2ドル
音楽のけいこに行ったごほうび	1ドル
合 計	4ドル



お母さんは、にっこりと笑^{わら}って何も言
いませんでした。

そして、お昼の時間^{ひるまじ}のとき、お母さん
はブラッドレーのお皿^{おし}の横^{よこ}に、四ドルの

ブラッドレーのせい求書^{きゅう}

ある朝、ブラッドレーが二階^{かい}からおりて朝食
のテーブルについたときのことです。

ポケットから、一まいの紙を出すと、お母^{かあ}さ
んのお皿^{おし}の横^{よこ}に置^おきました。

お母さんは、それを開^{ひら}きました。

けれども、お母さんは、その紙に書かれてい
ることを本当だと信^{しん}じることができませんでし
た。

ブラッドレーの置いた紙は、次^{つぎ}のようなせい
求書^{きゅう}だったのです。





これを読んだブラッドレーの目は、なみだでいっぱいになりました。

そしてお母さんの所へかけて行き、
「お母さん、このお金は返します。そして、お母さんのために、ぼくにも何かさせてください。」
と言いました。



お金を置きました。

ブラッドレーはそれを見て、自分の取り引きがうまくいったと考えて、喜びました。けれども、そこには、お金といっしょに、一まいの小さなせい求書がありました。それには、次のように書かれていました。

お母さんからのせい求書	
親切にしてあげた代	〇ドル
病気をしたときのかん病代	〇ドル
服や、くつや、おもちゃ代	〇ドル
食事代と部屋代	〇ドル
合 計	〇ドル



共に助け合って生きる

みきたの家には、お父さんとお母さん、そしてベルナがいます。みきたのお父さんとお母さんは、目が不自由でしたが、お母さんのもうどう犬ベルナといっしょに、家族は、いろいろなことを乗りこえて、幸せに暮らしていました。

みきたが、赤ちゃんのころに、あぶない場所に行こうとすると、決まって、ベルナがお母さんの所に行って、鼻の先で足をつついて「お母さん、みきたくんがあぶないよ。」と知らせてくれました。ベルナは、お母さんの生活を助けるパートナーであり、みきたのお姉さんのようなそんざいでした。

ところが、みきたが小学三年生のころのことです。年をとって、白内しょうという視力が落ちてしまう病気になっていたベルナは、とうとうもうどう犬の仕事ができなくなってしまうたのです。もうどう犬の仕事ができなくなれば、ベルナは、もう、みきたたちとはいっしょにいられなくなります。

お母さんは、なやみました。ベルナとは、これまでずっといっしょに、苦しいことやつらいことを乗りこえてきました。お母さんは、ベルナを自分の子どものように思っていました。ベルナの目が見えなくなったからといって、手放すことはできないと思いました。けれども、お母さんにとっては、生活を助ける役わりをしてくれるもうどう犬が必要でした。お父さんもお母さんのことを心配して、ベルナを手放して、別のもうどう犬と生活していこうとすすめました。

ある日の夕食のときです。どうしたらいいのかとずっとなやんでいたお母さんは、とうとう泣き出しました。

みきたは、お母さんの様子を見て、自分がベルナの目になるからと言いました。自分がベルナの目になって、ベルナを助ければ、ずっとみんなでくらしていけると思ったからです。

みきたの言葉を聞いたお母さんの目からは、ますますなみだがこぼれ、声をふるわせて「ありがとう。」と言うのがやっとでした。

もうどう犬

目の不自由な人が行きたい場所へ出かけられるように、安全に歩くための手助けをします。目の不自由な人といっしょに電車やバスに乗り、お店などに入ることもできます。



この話に出てくる「お母さん」は、「郡司ななえ」さんといえます。

ななえさんは、「盲導犬ベルナのお話の会」を開いて、様々なこんなんを乗りこえながら、もうどう犬と共にくらしてきた経験をもとに、多くの人に伝えていきます。





(4) 協力し合って楽しい学校、学級を

みんなでつくる楽しい学校

● あなたにとって学校とは、どのような所ですか。学校での生活をふり返って、の中に書きましょう。

先生からいろいろなことを
教えてもらう所

どのようなことを教えてもらっていますか。

がんばって自分の力を
のばす所

どのようなことをがんばっていますか。

友達と力を合わせて活動する所

友達と力を合わせて、どのような活動をしていますか。

思い出をたくさんつくる所

学校での心に残る思い出は、どのようなことですか。

みんなでつくる楽しい学級

学級会での話し合い



学級での集会活動



学級の係活動



● あなたの学級では、楽しい学級にするためにみんなで取り組んでいることがありますか。

◆ 楽しい学級にするためには、次のようなことを、どのようにして解決すればよいと思いますか。
みんなで話し合ってみましょう。

仲間に入れなくてこまっている友達がいるとき

一人でさびしそうにしている人がいます。



係活動がうまくいかないとき

係の仕事をしていない人や当番をわすれている人がいます。



学級のきまりが守られていないとき

学級のみんなで決めたきまりが守られなくなっています。





知えを出し合う仲間



真けんにちょう戦する仲間

協力し合って楽しい学級

新記録を目指すぞ

休み時間になった。今日も、ハの字なわとびの記録をのばすために学級みんながいきおいよく運動場に出た。みんなの目は真けんだ。

「一、二、三、……」

とみんなで数を数えながら、いきおいよくなわが回っている。

「おくれではだめだよ。」

「なわをよく見てね。」

とかけ声がかかる。なわに入るときの目は本当に真けんだ。

わたしたちは、ハの字なわとびにちょう戦しています。たくさんとべるように、みんなで話し合って工夫しています。



四月に始めたころは、おこった口調で、

「どうして、なわをよく見ないの。」

「なわを回すのがおそすぎるから、引っかかるんだよ。」

と仲間をせめていた。みんなの表情もだんだんかたくなり、

引っかかることも多かった。何回も、帰りの会や学級会で

ハの字なわとびのことについて話し合った。せいっぱい

やっているとべない人の気持ちを考えることで、みんなの

気持ちやその人への関わり方が変わってきた。

そして、とべない人もえがおで真けんに取り組むようになった。

みんなも、ハの字なわとびを楽しむようになった。

「二〇〇、二〇一、二〇二、……」

「やった、新記録だ。」

そのときの学級のみんなの顔は、今でもわすれることが

できない。

みんな待っているよ

「ちがう学校なんていやだ。知らない子ばかりでしょ。」
病気で入院したわたしは、お母さんから「院内学級」
に通うようすすめられた。院内学級とは、病気やけがで
長く入院する子どもたちのためにつくられた、病院の中
にある学校だ。

「わたしは、三年三組がいいの。友達とはなればなれに
なっちゃうよ……。」

「えみちゃん、そんなこと言わないで。退院したら、三
年三組にもどることができんだから。勉強のことも
あるし、新しい友達もできるわよ。」

お母さんの言葉で、わたしはしぶしぶ院内学級に通う
ことにした。

次の日、わたしはお母さんと院内学級に登校した。教



室が二つだけの「小さな学校」だ。教室に入ると、田中先生がえ
がおでむかえてくださった。

マスクをした子どもや車いすに乗った子ども、点てき台をおし
た子どもが集まってきた。「おはよう。」と言ってくれた。

ここは、小学校一年生から六年生までの子どもがいっしょの学
級だ。

授業が始まった。田中先生は、とても分かりやすく教えてくだ
さった。休み時間になると、みんな楽しそうに話を始めた。わた
しは、三年三組のみんなを思い出し、まどの外をじっと見ていた。

「どうしたの。」
四年生のあさみさんだ。わたしは、あさみさんたちとなぞなぞ
をしたり、あやとりをしたりして、楽しく遊んだ。

「みんな、友達だよ。」

あさみさんの言葉に、わたしは、小さく「うん」とうなずいた。
院内学級に通い始めて二週間がすぎたとき、わたしは大きな手
術をすることになった。院内学級に通うのも、しばらくお休みだ。



「お父さん、わたし、手術をがんばって、早く院内学級に行くよ。そして、早く退院して、三年三組に行くよ。」
わたしは、お父さんにたのんで、みんなの絵と手紙を、ベッドの横のかべにはってもらった。

えみちゃん、体の調子はどうですか。
来週は、遠足です。今年は水族館に行きます。ペンギンもいるそうです。えみちゃんと、行きたいな。
だから今は、しっかりと病気を治してください。えみちゃんが、退院して学級にもどってくるのを、みんな、待っているよ。

その日の夕方、わたしの所に、手紙がとどいた。三年三組のみんなやたんにんの上山先生からの手紙だった。



手術の前の日。わたしは、お父さんと病室にいた。
「ねえ、お父さん。またみんなと勉強できるかなあ……。」
「みんなって……。」
そこに、院内学級の田中先生がたずねてきてくださった。
「調子はどうですか。あなたが手術でしばらくお休みすると聞いて、あさみさんやみんなが、絵をかくてくれましたよ。」

そう言って田中先生は、絵を差し出した。わたしの顔が真ん中に大きくかいてあり、その周りにみんなや先生の顔がある。そして、そこにはメッセージもあった。

えみちゃん。手術がんばってね。早く院内学級にもどってきてね。みんな、待っているよ。

わたしは、思わずにっこりとほほえんだ。



わたしたちのふるさと
の人々、生活、自然や文化、
それらは全て、
わたしたちのたから物。



あなたが生まれた所、
住んでいる所が
ふるさとです。



● あなたは、ふるさとのどのよう
な所が好きですか。



わたしたちの心を育ててくれるふるさと

(5) きょう土を愛する心をもって



4年

3年

● あなたのふるさとは、どのよう
な祭りや行事がありますか。調べて
書きましょう。

ふるさとをしようかいしましょう

● あなたのふるさは、どの
ような所ですか。みんなに
しようかいしましょう。

● 好きな場所



● おいしい食べ物



● 伝えられている
昔話や歌



4年	3年

ふるさとをよむ

● 「ふるさと」という言葉を入れて短歌を作ってみましょう。

あなたのふるさとに、
もう一度、目を向けてみましょう。
どのような風景が見えてきますか。



人物のコラム

ふるさとを愛した歌人

石川啄木

短歌

五・七・五・七・七の三十一音を
基本として表現される和歌

*1 やはらかに
柳あをめる北上の
岸辺目に見ゆ
泣けとごとくに

*2 ふるさとの
訛なつかし停車場の
人ごみの中に
そを聴きにゆく

ふるさとの
山に向かひて言ふことなし
ふるさとの山は
ありがたきかな

(※1) 柳あをめる 柳の葉が青くなった
(※2) 訛 地いきの言葉、方言
(※3) 停車場 駅



石川啄木
(一八八六～一九一三)
岩手県出身の歌人

(6) 伝とうと文化を大切に

日本の伝とうと文化

わたしたちの国には、昔から受けつがれてきた伝とうと文化があります。

和服

はおりやはかま、ふりそでなどがあります。



和食

日本人が昔から食べてきたものです。自然のめぐみを素材にして調理しています。



「和食 日本人の伝とう的な食文化」が、平成二十五年（二〇一三）年、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。

和室

たたみ、ふすま、しょうじなどで作られた部屋です。



「お雑煮」

お雑煮は、日本の伝とう的な正月料理です。各地いきには、その土地で工夫され伝えられている、地いきのお雑煮があります。



奈良県の「きな粉雑煮」

別皿にきな粉を用意するのが特ちょうです。

福岡県の「博多雑煮」

焼きあご（トビウオ）でとっただしに、ブリやかっお菜を入れるのが特ちょうです。



ふろしき

物の形に合わせて包み方を変えれば、一まいのぬのでどのような形の物も包めます。



他にどのような日本の伝とうや文化がありますか。

日本の年中行事

わたしたちの国には四季があります。人々は、季節を感じながら願いや思いをこめて行事を行い、わたしたちの生活をゆたかにしてきました。

ひな祭り (三月三日)
 女子のすこやかな成長を願って祝います。
端午の節句 (五月五日)
 男子のすこやかな成長を願って祝います。

七夕 (七月七日)
 天の川の兩岸にあるしよく女星(おりひめ)とけん牛星(ひこぼし)とが年に一度会うという伝説によって、星を祭ります。

正月 (一月初め)
 鏡もちをそなえたり、お雑煮やおせち料理を食べたりして新年を祝います。
節分 (二月三日)
 豆をまき、年の数だけ豆を食べて、無事にすごせるように願います。

月見 (中秋の名月 九月ごろ)
 すすきをかざり、月見団子をそなえるなどして月をながめます。
七五三 (十一月十五日)
 男子は三さいと五さい、女子は三さいと七さいのときに行う成長を祝う行事です。

◆この他にも様々な年中行事があります。また、地いきによってことなる行事もあります。あなたの住んでいる地いきにはどのような行事があるか、調べてみましょう。

外国の文化

外国にも、その国の伝とう的な衣しようにや料理、住居などがあります。外国の人々のもつ文化にも親しんでみましょう。

サリール (インド)
 細長いぬのでできた女性の衣しように。
キルト (スコットランド)
 スカートの形をした男性の衣しように。

トルッロ (イタリア)
 とんがり屋根と、屋根にえがかれた白いもようが特ちょう。

食
クスクス (北アフリカ)
 小麦粉をつぶじようにしたものの。また、それを使った料理。
ボルシチ (ウクライナ・ロシア)
 ビーツなどを具とする赤いこみスープ。

住
ゲル (モンゴル)
 モンゴル遊牧民の移動式住居。パオともよばれる。
トルッロ (イタリア)
 とんがり屋根と、屋根にえがかれた白いもようが特ちょう。

◆外国の文化について関心をもちたことを調べてみましょう。

日本の文化にひかれて

小泉八雲

「いったい日本では、なぜ、このように樹木が美しいのでしょうか。西洋人にとっては、満開の梅やさくらも、それほど美しいとは感じられないけれども、この日本では、とほうもなくそれらの木々は美しくて、前もっていくら書物で読んでいても、実際の光景を見ると、全く何とも言いようがないほどです。」

日本の自然の美しさをこのようにのべて、外国にしようかいたした人がいます。

その人の名前は、ラファディオ・ハーン、またの名を小泉八雲といいます。

ハーンは、一八五〇年にギリシャで生まれ、アイルランドなどで育ちました。

大人になり、アメリカで新聞記者をしていたハーンは、以前から関心をもっていた日本に行ってみたいと強く思うようになりました。

三十九さいのころ、ハーンは、ざっし社から日本での取材をたのまれ、日本に三年間の約束で行くことになりました。

日本に来てからのハーンは、見るもの聞くもの、全てに心をひかれました。日本の自然や芸術にふれ、人々と関わっていくうちに、ハーンは、とうとう、日本にずっといようと決心をしました。

そして、ハーンは、島根県松江で英語の先生となり、日本の女性と結こんして約一年間、松江で生活をしました。それから、熊本にうつり、英語を教えながら三年間をすごしましたが、学校が休みのときには日本各地を旅行して、日本について研究したことを本に書いて世界に発表しました。熊本を去って、神戸の新聞社で仕事をした後、東京にうつり、東京大学の英文学の先生になりました。

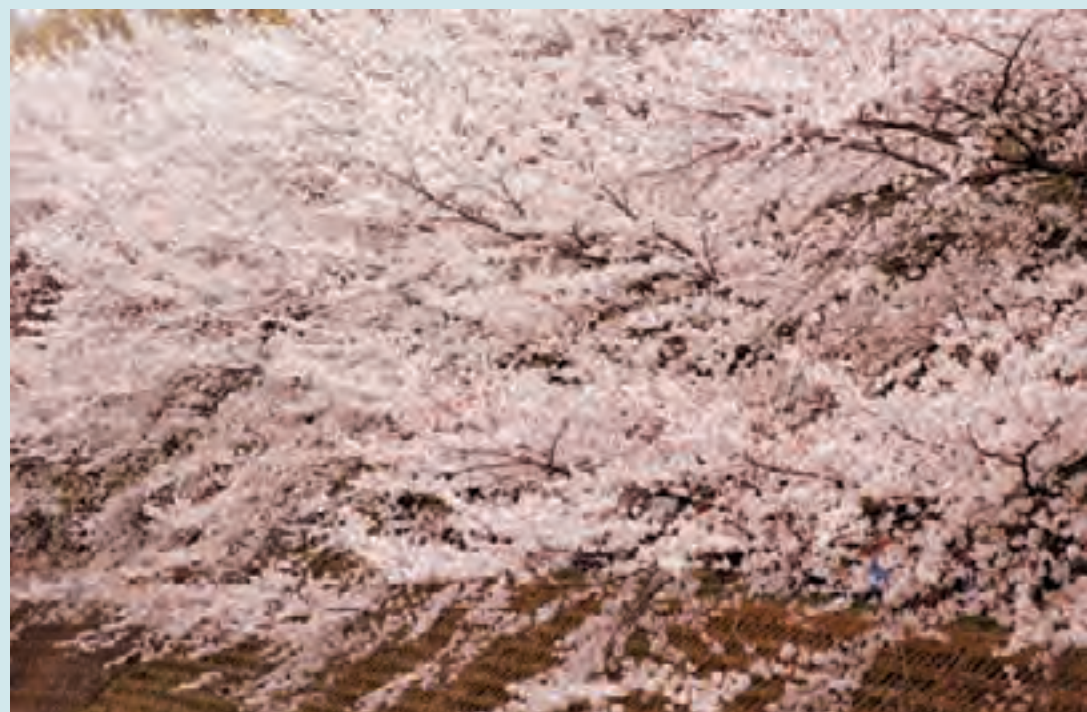
ハーンは、日本人の日々のくらしに見られる礼ぎやつつましい生活ぶり、日本の伝とうや文化をとても気に入り、四十六さいのときに、日本人になる手続きをして小泉八雲と名前を改めたのです。

「怪談」をはじめ八雲の書いた数々の文学作品や日本に関する本は、日本だけでなく外国でも読まれ、日本を広く世界にしようかいるものとなりました。

外国で生まれ育ち、日本を愛した八雲は、日本人として五十四さいの人生を終えました。



小泉八雲（ラファディオ・ハーン）
（一八五〇〜一九〇四）
ギリシャ出身の作家
日本研究家



コンピュータやけい帯電話などを どのように使えばよいのでしょうか

コンピュータやけい帯電話などのじょうほう機器は、とても便利です。いろいろなことを調べたり、かん単に友達とメールで話したりすることができるようになります。けれども、使う場面や使い方をよく考えないと、あぶない目にあったり、こまったりすることがあります。



ゲームが大好きなまさお君は、オンラインゲームで友達とよくゲームをしています。時々、宿題が後回しになってしまったり、約束を守れないこともあります。

つい、おそくまでゲームをして、よく朝、起きられなくなることもあります。

●このような生活を続けていると、やがてどのような問題が起こるのでしょうか。

●これからは、どのようなことに気を付けなければならないのでしょうか。



ゆみさんの家に電話がかかってきました。
「よい参考書さんこうしょがあるので、たくさんの人にしようかいしたいと思います。友達ともだちの名前と電話番号ばんごうを教えてくださいませんか。」
ゆみさんは、どうすればよいのかと思いました。



● もし教えてしまったら、どのようなことになると思いますか。

● このようなとき、どのようにすればよいのでしょうか。

りょうたくんのけい帯電話に、知らない人からメールがとどきました。

プレゼントが
当たったので
おとどけます。
住所じゅうしょと名前と
たん生日を入力
して、返信へんしんして
ください。

りょうたくんは、喜んで入力しようとしてしましたが、（あれ、いいのかな。）と思ってじっと考えました。



● もし入力してしまったら、どのようなことになると思いますか。

● このようなとき、どのようにすればよいのでしょうか。



相手の意見と
自分の意見が
ちがったとき

こんなとき、あなたはどうしますか



理由も分からず
に友達がおこっ
ているとき



けんかの後、
友達があやまっ
てきたとき

周りの人たちと、もっと仲良くするために
おたがいのことを理解するにはどうすればよいのかな

友達に言われた一言にとてもきずついた。

そんなつもりで言ったわけではないのに、
自分の一言が友達をきずつけてしまった。

こんなすれちがいの経験はないかな。

このままではいけないよね。

どうすればよいのだろう。



自分の考えを言ってみよう。相手の考えを聞いてみよう あなただったらどうしますか

学級会で、来月クラス対こうで行うスポーツ大会の種目について、何を行いたいのか、クラスの意見をまとめるため話し合っています。

●サッカーが得意なけいすけくん
体育でミニサッカーをして楽しかったので、サッカーがいいと思います。

●走るのが得意なよしひでくん
みんなが楽しめるように全員リレーがいいです。

(けいすけくん)
全員リレーは待っている時間が長いから、あきちやうよ。

(よしひでくん)
サッカーは、上手な人しかボールにさわれないからつまらないよ。

なかなか種目が決まりません。学級会の時間が少なくなってきました。



意見をまとめるにはどうしたらよいだろう

けいすけくんとよしひでくんになって話し合いをしてみましよう。

①役割を決める

けいすけ (サッカーをやりたい)

よしひで (リレーをやりたい)

②話し合い

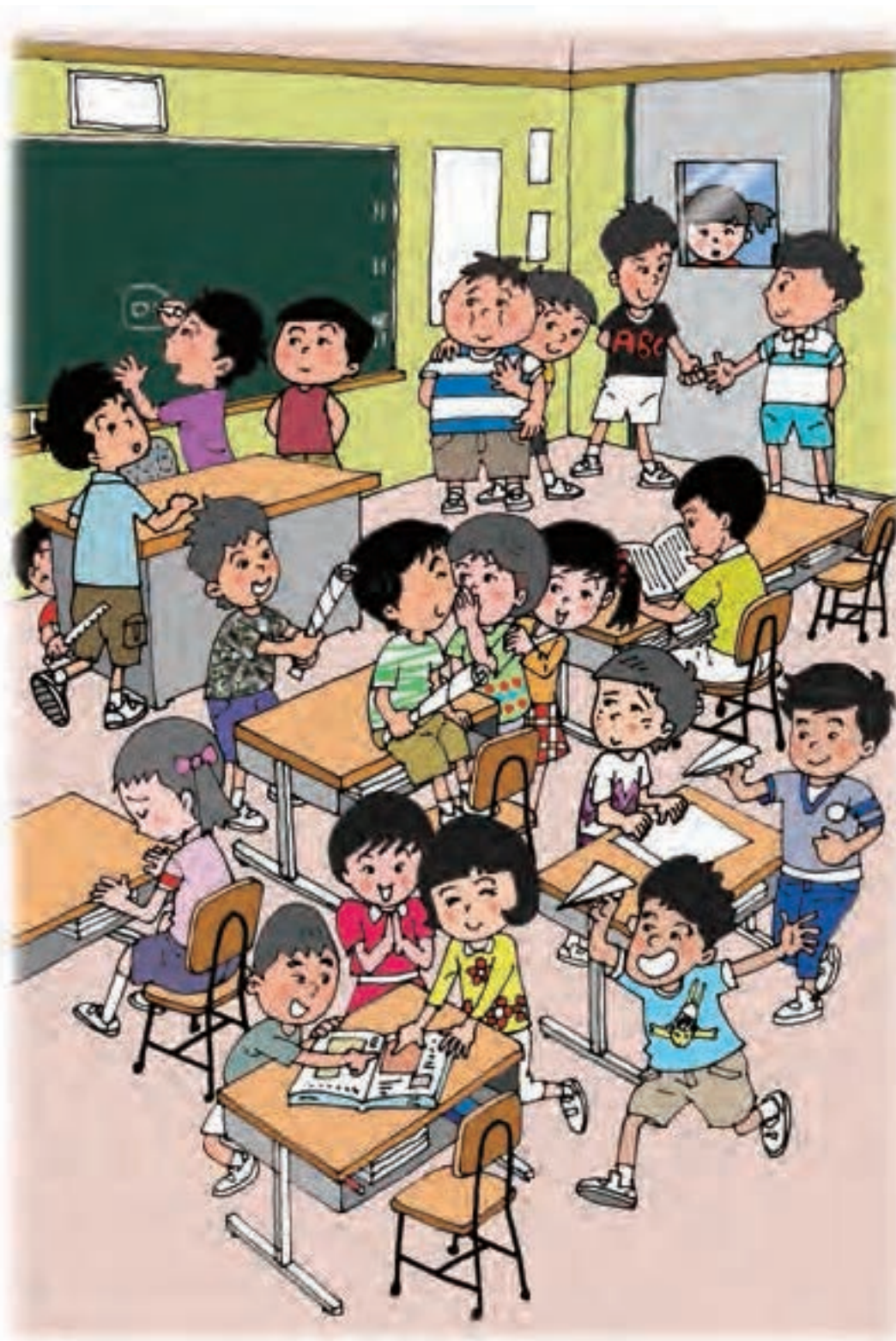
③役を交代して話し合い

④えんぎをした感想の話し合い

意見をまとめるために大切なのはどんなことでしょう

相手の話を聞くとときに大切なこと

自分の考えを話すときに大切なこと



見すごしていませんが、こんな場面ばめん

分けへだてをしない

だれたいに対しても同じ態度たいどで

あの子はよくて、この子はだめ。

よくないこととは知りつつ、

人によって態度を変かえてしまうことは

ありませんか。

だれに対しても分けへだてのない

同じ態度をとるには、

ちょっとした勇気ゆうきが必要ひつようなときもあります。

態度のちがいによって悲かなしんでいる人は

いませんか。



こんなことを言われたら	何て言う・どうする
〇〇さんに、「△△さんはわたしの友達だから、仲良くしないでほしい」と言われました。	
ぼくはいつも●●君にからかわれています。●●君は先生にそのことを注意されましたが、その時「先生、ぼくたちはただ二人でふざけ合っただけです。なあ××君。」と言いました。心の中ではからかうのをやめてほしいと思っています。	

- なぜそう思うのか理由も考えてみよう。
- どんな言い方をすればいいのか、友達と一しょに考えてみよう。

こんなことを言われたら	何て言う・どうする
放課後、みんなでサッカーの試合をする約束をしています。 ××君に、「●●君がいると負けてしまうから、●●君をさそうのはやめよう。だから内しよでやろう。」と言われました。	
■●君をみんなが無視しています。 「××君も、■●君を無視しようよ。みんなしているから、いいじゃない。」と言われました。	

こんなとき、どうしたらよいのかな



三年

四年

分けへだてをしないために、どんなことに気をつければよいだろう

なぜいけないの

こんなことはありませんか。なぜいけないのか、話し合ってみよう。



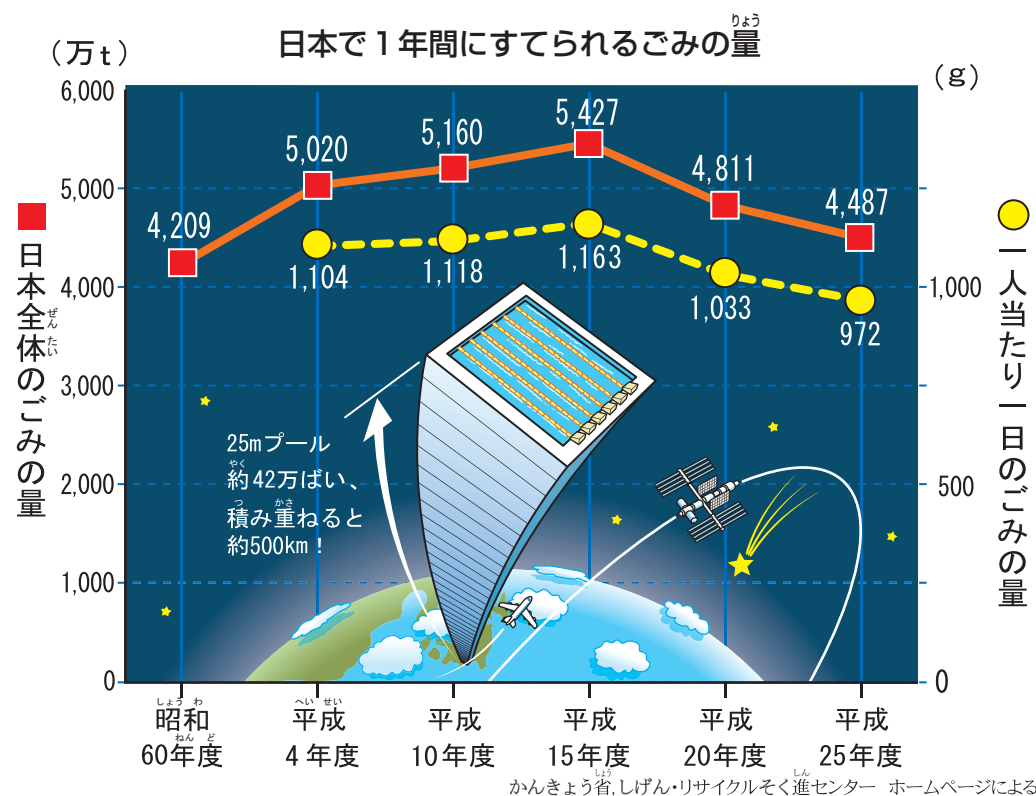
自分よりも弱い人に
いじわるをしてしまう。

みんなとちがうから、
いじわるをしてしまう。



自分がやられるのがいやだから、
いじわるをしてしまう。





わたしたちは、さまざまな資源を利用して生活をしています。

そして、毎日、たくさんの物を作って、同時に、たくさんの物をごみとしてすてています。

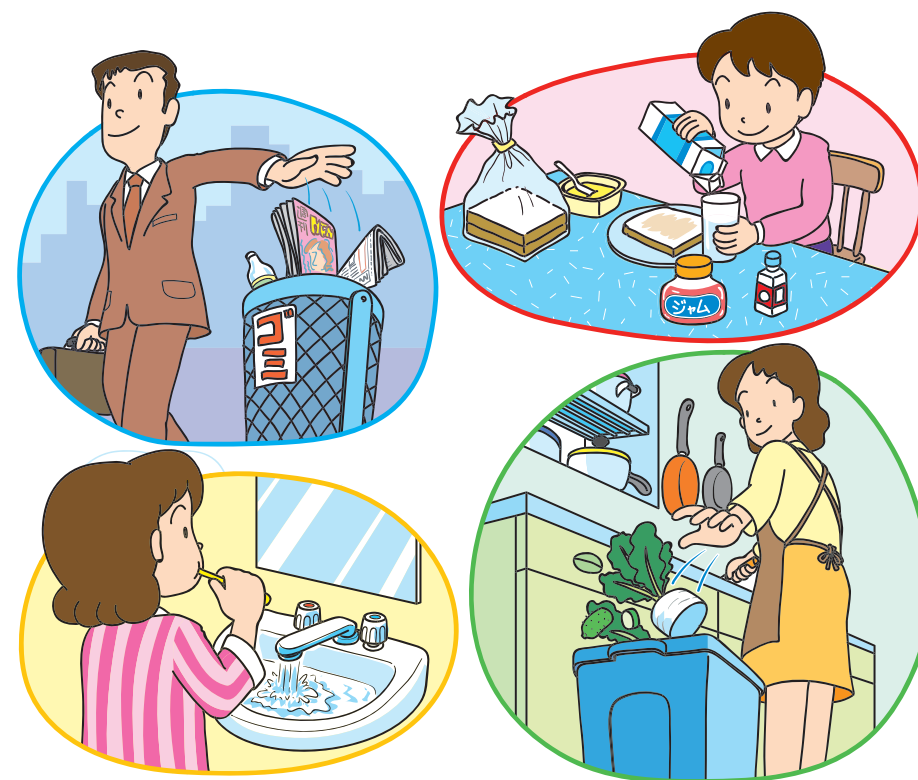
それは当たり前のことなのでしょう。

資源にはかぎりがあります。しよ分場もかぎられています。

わたしたちはこのような生活を続けていよいのでしょうか。

「自分だけならだいじょうぶ。」そんな気持ちはないでしょうか。

ちよっと立ち止まって考えてみましょう。



わたしたちがつくる、地球にやさしい生活



資源を大切にするために、
 「3R」という考え方があります

3Rの視点から学校生活を見つめ直してみよう。

ごみ清そう員の立場から

ごみは、その種類によって分別し、もやしたり、再利用したり、再利用したりしています。

一方で、分別が不十分だと、再利用、再利用できるはずのごみはもやされ、しよ分場にもめ立てられることになります。とてももったいないです。

ごみの中には、まだ使える物もあります。また、うめ立て地はかぎられていますし、ごみしよ理にはたくさんのお金がかかっていることもわすれてはなりません。

ごみと一言で言ってもいろいろな物があるので、すてたら終わりではなく、すてた後のことも考えてほしいと思います。

生産者の立場から

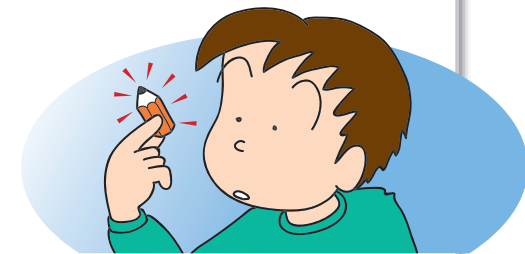
農作物は、しゅうかくまで一年以上かかる物があります。しかし、田んぼや畑の世話には休みがありません。水をあげ、肥料をあげ、毎日毎日気かけながら、一年以上も育てていくのです。

一生けん命育てた農作物も、いざしゅうかくという段階になって、台風などでしゅうかくができなくなってしまう年もあります。大変悲しいことです。

苦労をして大切に育てた物なので、たくさんの人においしく食べてもらいたいです。

わたしたちにできることをさがそう

学校生活で



家で



地いきで



自分たちで考えた、わたしたちにできることを、実際にやってみて、どう思いましたか。
友達^{ともだち}の考えも聞いてみよう。

道徳の時間に学習したこと

道徳の時間に話し合ったこと、考えたことの中で心に残ったことを書きとめておきましょう。
家の人からもメッセージをもらいましょう。

月 日

家の人からのメッセージ

月 日

家の人からのメッセージ

月 日

家の人からのメッセージ

月 日

家の人からのメッセージ

月 日

家の人からのメッセージ

月 日

家の人からのメッセージ

